

第二編 産業經濟

第一章 産業の動向

第一節 近年の移り変わり

本村における、この一〇年の、産業の移り変わりは激しく、一時代を築いた「葉たばこ」・「養蚕」が、生産者ゼロとなるなど、世相・景気が大きく反映された時代であった、と言えるのではなからうか。

特に、林業においては、バブル崩壊後の長引く不況の影響が著しく、木材価格の低迷は、育林意欲の減退を招き、除間伐や枝打ち作業の遅れ、加えて、林業従事者の高齢化・後継者の不在により、森林保全条件は、危機的な状況下にある。採算のとれる林業施業体制の確立、担い手の確保・育成は、本村が直面する大きな課題である。

農業において特筆すべきは、まず中国をはじめとする、外国からの低生産コスト・低価格農産物の、急激な流入増加である。国内産地は、価格競争において厳しい状況となり、国は、セーフガードの発令、産地・流通においては、減農薬栽培等の品質における差別化を図り、日本農業を死守している現状である。

また、近年、食品等の虚偽表示問題に端を発し、様々な問題が顕在化したことから、国は、平成一四年四月に「『食』と『農』の再生プラン」を策定した。

- このプランの柱は
- ①食の安全と安心
- ②農業の構造改革の加速化
- ③都市と農山漁村の共生・対流

となっており、消費者重視・マーケット重視の農政へと転換されつつある。生産過程・流通過程を明確にするための、記録・記帳が義務付けられる（トレーサビリティ制度）など、農業関係者にとっては、益々厳しい時代を迎えつつある。

その一方で、近年は「地産地消」「スローフード」といった言葉が流行しているように、地域固有の農産物や食品を見直そうとする、食に対する大きな意識の変革が起きている。今後は、ニーズに対応した「顔の見える農産物づくり」を、生産者・農協・行政が一致協力して、推進していく必要がある。

このような時代の流れに、対応するための基盤づくりとして、本村が、近年取り組んだ産業振興施策を以下に記述する。

農家の形態

(単位：戸)

区 分		昭和 35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成 2年	7年	12年
総農家数		1,215	1,066	964	796	787	665	569	493	426
専兼別	専業	79	130	134	98	119	154	122	115	76
	第一種兼業	722	544	369	222	160	108	126	98	22
	第二種兼業	414	392	461	476	508	403	321	280	328
経営耕地規模別	例外規定	3	29	—	—	—	—	—	—	—
	0.3ha未満	299	268	322	262	322	254	215	189	190
	0.3～0.5	296	266	225	201	159	165	134	143	115
	0.5～1.0	425	368	289	243	214	167	161	122	90
	1.0～1.5	147	115	104	76	67	60	46	30	22
	1.5～2.0	36	17	21	13	20	14	8	6	2
	2.0ha以上	9	3	3	1	5	5	5	3	7

第二節 農林業の概況

一 土地利用の状況

美川村の総面積は、一万三、四三八ヘクタールであるが、森林面積が、一万二、二二〇ヘクタールと、九〇・二パーセントを占めている。耕地面積は、三四一ヘクタール（耕地率二・五パーセント）で、一〇年前に比べ、一一七ヘクタール減少した。

耕地利用率は、一一二・九パーセントであり、低下傾向にある。耕地の内訳は、田が一六八ヘクタールで、二一ヘクタールの減、畑は一七九ヘクタール（果樹園・茶園含む）で、九〇ヘクタールの大幅な減少となっている。（共に一〇年前との比較）

従来からの、減反政策による、水田の林地化及び高齢化・離農による、非耕地化・林地化への現象が窺える。また、耕作放棄地の増加は、本村のみならず、全国的に深刻な問題となっており、対策が急がれている。

耕地面積

(単位：戸・ha)

年次	田	普通畑	樹園地	畑計 (樹園地含)	合計
昭和35年	252	—	—	505	757
40	267	307	191	498	765
45	270	299	163	462	732
50	213	140	165	305	518
55	211	144	161	305	516
60	202	186	106	292	494
平成 2年	189	182	87	269	458
7	175	160	52	212	387
12	168	144	35	179	347

二 就業人口の動態

別表、産業別就業人口の推移を見てみると、全国的な経済情勢が、本村においても、色濃く反映されているのがよくわかる。

過疎・高齢化のなか、就業人口全体では、二一・二パーセント減少（一〇年間の比較・以下同じ）し、特に、長引く不況により、建設業をはじめとする、第二次産業の就業者数は、三三・四パーセントと大きく減少している。第一次産業においても、比較的減少率が小さくなったとはいえ、これは、絶対数の減少であり、その実態は、就業者の高齢化・担い手不足が深刻である。第三次産業は、現在のところ、横這い状態であるが、不況や職場の統廃合が急激に進む今後は、減少が予想される。

産業別就業人口

(単位：人)

年別		昭和55年	昭和60年	平成 2年	平成 7年	平成12年
総数		2,085	1,863	1,408	1,316	1,110
第一次産業	農業	834	657	342	322	284
	林業	109	137	115	99	73
	漁業	1	1	2	1	1
	計	944	795	459	422	358
第二次産業	鉱業	1	1	—	—	—
	建設業	388	357	289	274	239
	製造業	182	196	193	153	87
	計	571	554	482	427	326
第三次産業	卸売小売業	165	136	142	121	104
	金融・保険	63	64	59	48	41
	運輸・通信業	253	239	186	226	208
	サービス	83	73	80	72	73
	公務					
	計	564	512	467	467	426

(国勢調査による)

第二章 農業

第一節 作目別動向

ここでは、第七節の、松山市農協の記述と重複するので、特殊な作物についてのみに記述する。

一 米

村内の、平成一五年産水稻作付面積は、八一ヘクタールで、平成六年に比べて、五五ヘクタールの減少となっている。また、政府買入価格については、平成六年以降、除々に値下がりし、平成一五年買入価格では、比較して二、五一八円の値下げとなった。

近年、稲作農家の収入が減少するとともに、三〇年余にわたり実施されてきた、生産調整に対する限界感・不公平感が増大するなど、水田農業は、まさに、閉塞状況ともいえるべき事態に立ち至っている。

本村においても、水田農家の高齢化によって、水稻作付面積は、年々減少傾向にあり、収穫量においても、面積に比例し減少しており、耕地利用の低下、耕作放棄、荒廃化が進んでいる。

米の消費量は、近年減少傾向にあり、平成一二年度は、一人一年当たり六四・六kgとなり、ピーク時である昭和三七年度の、一一八・三kgに比べ、約半分近くまで減少している。

こうした中で「米政策改革大綱」が決定され「農業構造の展望」と「米作りの本来あるべき姿」を、平成二二年度までに実現するため、

水稲の作付面積と収穫量

年次	美川村			愛媛県		
	作付面積	10a当たり 収穫量	収穫量	作付面積	10a当たり 収穫量	収穫量
昭和35年	222 ha	339 kg	750 t	42,100 ha	396 kg	166,600 t
40年	242	368	891	39,700	412	163,600
45年	221	398	880	33,000	406	134,000
50年	187	392	733	29,900	455	136,000
55年	160	306	490	25,600	386	98,800
60年	155	438	679	24,300	486	118,100
平成 2年	138	423	584	20,900	420	87,800
6年	136	489	665	21,700	531	115,200
7年	132	476	628	20,800	512	106,500
8年	128	443	567	19,400	488	94,700
9年	125	454	568	19,100	483	92,300
10年	114	477	544	17,500	492	86,100
11年	108	448	484	17,300	465	80,400
12年	107	474	507	17,100	506	86,500
13年	92	476	438	16,600	501	83,200
14年	89	470	418	16,400	501	82,200
15年		411				

今回の政策改革を契機に、単に生産調整の達成を主目的とした対策から、米づくりの本来あるべき姿に向けた、地域農業の構造改革を、地

域で統一的・総合的に実践する取組に転換し、この一環として、生産調整を推進する。

米の政府買入価格

(60kg玄米)

年 度	政府買入価格	
	一 等	二 等
平成 6年	16,666	16,346
平成 7年	16,666	16,346
平成 8年	16,666	16,346
平成 9年	16,492	16,172
平成10年	16,142	15,822
平成11年	15,950	15,630
平成12年	15,562	15,242
平成13年	15,172	14,852
平成14年	14,676	14,356
平成15年	14,148	13,548

転作等実績書

事業名 項目		水田営農活性化対策		新生産調整推進対策		緊急生産調整推進対策	
		平成 6年度	平成 7年度	平成 8年度	平成 9年度	平成10年度	平成11年度
目標面積 (ha)		50.1	56.1	32.0	32.0	73.7	73.7
実績面積 (ha)		50.3	63.4	33.7	33.8	78.6	75.3
達成率 (%)		100	113	105	106	106	102
農家数 (人)		317	358	269	250	375	376
内 訳	特例作物 (ha)	14.2	15.3	16.4	16.4	18.0	17.9
	永年性作物 (ha)	3.7	0.7	1.3	0.7	1.1	0.7
	一般作物 (ha)	6.1	7.1	6.6	7.3	9.0	7.8
	自己保全管理 ・調整水田 (ha)	3.4	5.9	8.7	7.1	12.8	11.5
	実績算入 (ha)	22.9	34.2	0.7	2.3	35.0	36.9
	その他 (ha)	—	—	—	—	2.7	0.5
事業名 項目		水田農業経営確立対策					
		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度		
目標面積 (ha)		73.7	73.8	73.8	77.1		
実績面積 (ha)		81	86.2	94	77.1		
達成率 (%)		109	116	127	100		
農家数 (人)		384	400	416	461		
内 訳	特例作物 (ha)	18.6	19.4	19.9	19.2		
	永年性作物 (ha)	3.0	0.8	2.5	1.5		
	一般作物 (ha)	8.6	8.0	8.6	4.5		
	自己保全管理 ・調整水田 (ha)	13.6	14.3	14.6	7.2		
	実績算入 (ha)	37.0	40.6	44.6	44.6		
	その他 (ha)	0.2	3.1	0.5	0.1		

注) 平成15年度は当初計画の数字とする。



大谷地区 大根畑

一 だいこん

大根の生産については、大谷地区に集中している。平成四年頃、一四戸あった生産者も、重量野菜であることと、高齢化等により減少している。現在は、五戸の生産者が、個選・個人出荷しているが、生食用夏秋大根として、市場の地位を築いている。一時期、松山市場へも出荷していたが、現在は、再び高知市場へ出荷している。

三 イチゴ

平成一一年、大谷の神谷豊志氏が、大根栽培から切り替え、標高約一、〇〇〇メートルの地で、本村はもとより県内でも前例の少ない、夏秋イチゴ栽培を始めた。平成一〇年、村単の農地造成事業により、三六アールのほ場を整備し、約二二アールのハウス・配管ベッド設備・養液供給施設を整備した。(村単・県単事業を利用)

当初、品種は「スイートチャーム」であったが、現在は「サンベリ」を栽培している。平成一五年、長男の博氏が、隣接地へ農地を造成、新たに、ほ場・ハウス等も整備し独立した。

出荷先は、県内九割、京都方面一割で、用途は、主にケーキ用である。今後は、優良品種の導入等による、安定生産を目指している。特異な立地条件を生かした取組であり、遠く県外からの視察も後を絶たない。



大谷 イチゴ栽培の状況

年次別野菜生産状況

作物名	平成2年		平成7年		平成12年	
	作付面積 ha	収穫量 t	作付面積 ha	収穫量 t	作付面積 ha	収穫量 t
麦類	1	1	—	—	—	—
甘藷	3	47	2	33	2	32
馬鈴薯	7	120	7	82	7	78
トウモロコシ	34	153	21	97	18	77
大豆	22	24	2	3	3	4
小豆	16	14	8	8	8	7
大根	36	788	27	465	22	362
きゅうり	2	40	2	41	1	24
かぼちゃ	2	36	2	36	2	34
トマト	2	88	1	79	1	109
ピーマン	5	175	6	346	6	267
キャベツ	7	145	6	93	3	38
はくさい	2	50	2	49	3	43

〔農林水産統計年報〕

四 四国カルスト大川嶺牧場

大川嶺牧場は、四国カルスト地区国営草地開発事業によって、総面積一三五ヘクタール、総事業費三億五、〇〇〇万円をかけ、昭和四六年度に着工し、昭和五四年度に完成したものである。

一 開発の目的

四国カルスト大川嶺牧場は、標高九〇〇mから一、五〇〇mの丘陵地に位置している。牧草の芽吹いた五月上旬に、肉用牛と乳用牛を入牧し、夏季の冷涼な好季節に肥育と繁殖を行い、初秋の一〇月下旬に退牧とする公共育成牧場として、本村はもとより、県下の畜産振興に資することを目的として開発されたものである。

二 近年の牧場施設・放牧事業の概要

老朽化した施設は、その都度修繕し維持しているが、給水施設については、平成八年度にポンプを、平成一三年度に配水管を、県や地方競馬全国協会の補助を受け、全面改修した。

昭和五三年度の牧場事業開始から平成八年度頃までは、約一五〇〜二〇〇頭の放牧牛と、約二〇〜一〇〇トンの乾燥牧草を取り扱っていた。しかし、農家の高齢化と後継者不足、また、国内外でのBSE（狂牛病）の発生や、大手企業の乳製品等不正行為の発覚による、牛肉・乳製品離れもあって、畜産所得の低迷が長期化したことも重なり、放牧頭数が激減している状況にある。



三 放牧事業の推移

大川嶺牧場放牧事業の推移

年 度	平成六年度	放牧期間	五月二日～ 一〇月三日 一七四日間	放牧頭数	一一二頭	延 頭 数	一万七, 二二二頭
年 度	平成七年度	放牧期間	四月一七日～ 一〇月一九日 一八六日間	放牧頭数	二〇二頭	延 頭 数	二万八, 二九九頭
年 度	平成八年度	放牧期間	五月一日～ 一〇月二五日 一六四日間	放牧頭数	一六九頭	延 頭 数	二万四, 七九〇頭
年 度	平成九年度	放牧期間	五月六日～ 一〇月三日 一七二日間	放牧頭数	一四二頭	延 頭 数	二万 八二八頭
年 度	平成一〇年度	放牧期間	五月一日～ 一〇月二三日 一七六日間	放牧頭数	二九頭	延 頭 数	一万七, 一九七頭
年 度	平成一一年度	放牧期間	四月二九日～ 一〇月一九日 一七四日間	放牧頭数	九八頭	延 頭 数	一万一, 二八八頭
年 度	平成一二年度	放牧期間	五月一日～ 一〇月一八日 一七二日間	放牧頭数	五六頭	延 頭 数	八, 六四二頭
年 度	平成一三年度	放牧期間	五月一日～ 一〇月二〇日 一七三日間	放牧頭数	六九頭	延 頭 数	一万 七四〇頭
年 度	平成一四年度	放牧期間	五月二日～ 一〇月二九日 一八二日間	放牧頭数	四三頭	延 頭 数	六, 六〇六頭
年 度	平成一五年度	放牧期間	五月一日～ 一〇月二三日 一七六日間	放牧頭数	二九頭	延 頭 数	四, 〇三九頭

第二節 農業振興事業

一 農地造成等補助事業

本事業は、本村の農業者等が、村の重機及びオペレーターにより、農地造成・ほ場整備等を行った場合、経費（重機使用料）の六〇パーセントを助成するものである。昭和六二年度から施行された、本制度を利用した農業者は、七名であり（別表参照）規模拡大や、ほ場条件の改善・新規就農時のほ場確保等に、有効活用されている。

農地造成等補助事業実施状況

年 度	種 目	整備面積	事業費	作付種類
昭和62	農地造成 畑 625㎡、山林 7,283㎡ 田 1,883㎡	9,791㎡	588千円	キャベツ栽培
平成元	農地造成 山林 4,000㎡	4,000㎡	456千円	キャベツ栽培
平成 7	ほ場整備 畑 4,600㎡	2,800㎡	594千円	ピーマン栽培
平成 8	ほ場整備 畑 3,100㎡	2,300㎡	543千円	ピーマン栽培
平成10	ほ場整備 畑 6,000㎡	3,600㎡	2,908千円	イチゴ栽培
平成13	農地造成 山林 3,500㎡、原野 1,300㎡	4,300㎡	1,310千円	トマト栽培
平成14	ほ場整備 畑 2,500㎡	2,000㎡	2,852千円	イチゴ栽培



大谷地区 農地造成の状況

二 施設農業育成事業

本村の農地の大半は、急傾斜・小区画・不整形であり、営農上大変不利な立地条件にあり、生産性も低い。この状態を脱却するため、土地集約（労働集約）型の施設農業に転換し、生産拡大と品質向上により、農家所得の向上を図るため、平成五年度から九年度までの五年間、本事業を実施した。（別表参照）

①事業内容

新規又は増設による、施設農業生産に要する経費を助成する。

②対象事業

対象事業費、三〇万円以上五〇〇万円以下の、次に掲げる作物の施設・資材

（トマト・ピーマン・茶・花き・菌床しいたけ）但し、整備後五年間以上使用するものとする。

③補助率

三〇万円から三〇〇万円の事業は、事業費の六〇%以内、三〇〇万を超え五〇〇万円までの事業は、事業費の七〇%以内。

④事業主体

事業主体は、農業協同組合とし、事業実施主体は、当該農家とする。

施設農業育成事業実施状況（H5～H9）

種目	戸数	事業費	村補助金	自己負担
トマト	7戸	12,358,247円	8,055,000円	4,303,247円
ピーマン	13戸	10,662,523円	6,386,000円	4,276,523円
菌床しいたけ	5戸	6,009,968円	3,920,000円	2,089,968円
花き	4戸	16,695,670円	11,044,000円	5,651,670円
茶	1戸	1,352,596円	811,000円	541,596円
	30戸	47,079,004円	30,216,000円	16,863,004円

二 夏秋野菜産地化支援事業

前述の、施設農業育成事業が、平成九年度で終了し、一定の効果を見たことから、夏秋野菜の産地化を、より推進するため、平成一〇年度から一四年度までの五年間、本事業を実施した（別表参照）。

①事業内容

新規又は増設による、夏秋野菜生産に要する施設経費を助成する。

②対象者

農家又は新規に農業経営を開始する者。但し、年齢を六五歳未満とし、それ以上の年齢者は、後継保証をすることとする。

③対象事業

村が推奨する作物（ピーマン・トマト・花き・その他、農業協同組合が産地化を推進する新規作物で、村長が認めたもの）の生産に要する資材等。但し、整備後、五年間以上は使用するものとする。

④補助率

三〇万円から三〇〇万円の事業は、事業費の六〇％以内。三〇〇万円を超え五〇〇万円までの事業は、事業費の七〇％以内。但し、施設農業育成事業の適用を受けた農家は、事業費の三〇％以内。

⑤事業主体

事業主体は、農業協同組合とし、事業実施主体は、当該農家とする。

なお、本事業は、平成一五年度より内容を若干変更し、第二次事業として継続している。

（変更内容）

◎補助率

三〇万円から三〇〇万円の事業は、事業費の六〇％以内。
三〇〇万円を超え、七五〇万円（限度額）までは、三〇〇万円を超えた部分の七〇％以内。

夏秋野菜産地化支援事業実施状況（H10～）

年 度	作物名	戸数	事業内容	事業費	村補助金
平成10	ピーマン	3戸	簡易雨除けハウス 育苗ハウス・灌水資材	2,949,108円	1,768,000円
	イチゴ	1戸	ハウス・養液供給設備	6,742,050円	3,500,000円
平成11	ピーマン	2戸	簡易雨除けハウス 灌水資材	782,118円	468,000円
	トマト	2戸	ハウス・灌水資材 防除資材	4,656,109円	2,793,000円
平成12	トマト	3戸	ハウス・灌水資材 防除資材	3,504,538円	2,100,000円
平成13	トマト	4戸	防除資材	2,102,250円	1,308,000円
平成15	トマト	3戸	ハウス・灌水資材 防除資材・省力資材	4,062,913円	2,436,000円
	ピーマン	3戸	育苗ハウス・簡易雨除け ハウス・灌水資材 防除資材	1,708,040円	1,023,000円
	イチゴ	1戸	ハウス 高設栽培施設 灌水資材他	5,781,773円	3,747,000円



夏秋野菜産地化支援事業による施設整備

四 二二世紀型農業（モデル）産地育成事業

本事業は、品質の優れた農産物の、安定的生産出荷により、市場評価の高い、銘柄産地を育成・強化するため、平成一一年度より、愛媛県が実施している事業である。

①事業内容（年により若干の差異有り）

次に掲げる作物の、先進技術導入・新品種導入・有機減農薬生産体制整備に要する経費の、三分の一を助成。

②対象作物別産地要件

米・麦・大豆（米五〇ヘクタール・麦三〇ヘクタール・大豆二〇ヘクタール以上）

果樹（二〇ヘクタール以上）

野菜（三ヘクタール以上）

花き（二ヘクタール以上）

工芸作物等（二〇ヘクタール以上）

但し、先述の、夏秋野菜産地化支援事業の補助率と同額までは、村費を継ぎ足し助成。

平成一一年度からの実施状況は、別表参照。

21世紀型農業産地育成事業実施状況（H11～）

年度	事業主体及び事業実施主体	対象作物	受益農家戸数	受益面積	事業の内容	事業費	負担区分	
							県費	村費
11	美川村 松山市農協	トマト	2戸	63a	トマトハウス3棟・913㎡ 養液土耕システム2セット 5,397㎡	4,993,914 円	1,584,000 円	1,336,000 円
13	美川村 松山市農協	トマト	3戸	58.1a	トマトハウス4棟・1,495㎡ 養液土耕システム4セット 5,814㎡ 防風垣資材一式	6,570,167 円	2,085,000 円	2,303,000 円
14	美川村 松山市農協	トマト	4戸	75a	トマトハウス13棟・2,978㎡ 養液土耕システム3セット 5,628㎡ 省力資材（巻き上げ機）一式	8,523,850 円	2,841,000 円	3,013,000 円
15	美川村・ 柳谷村 松山市農協	茶	15戸 (柳谷村 1戸含む)	301a	防霜ファン設置	(未定)	(未定)	(未定)

※金額は施設整備分のみ計上。



21世紀型農業産地育成事業による施設整備

第二節 農業委員会

一 農業委員会の仕事

○農業委員会は、その区域内の、次に掲げる事項を処理する。

① 農地法その他の法令により、その権限に属させた農地、採草放牧地、又は、新炭材の利用関係の調整、及び自作農の創設維持に関する事項、並びに、農業経営基盤強化促進法、及び特定農産村地域における農林業等の活性化のための、基盤整備の促進に関する法律により、その権限に属させた事項

② 土地改良法その他の法令により、その権限に属させた農地等の交換分合、及びこれに付随する事項

③ 前各号のほか、法令によりその権限に属させた事項

○農業委員会は、その区域内の、次に掲げる事項に関する事務を行うことができる。

① 農地等の利用関係についてのもつせん、及び争議の防止に関する事項

② 農地等の交換分合のあつせん、その他農地事情の改善に関する事項

③ 農業及び農村に関する振興計画の樹立、及び実施の推進に関する事項

④ 農業技術の改良、農作物の病害虫の防除、その他、農業生産の増進、農業経営の合理化、及び農民生活の改善に関する事項

⑤ 農業生産、農業経営及び農民生活に関する調査及び研究

⑥ 農業及び農民に関する事項についての啓発普及

○農業委員会は、前二項に規定する事務を行うほか、その区域内の農

業及び農民に関する事項について、意見を公表し、他の行政庁に建議し、又は、その諮問に応じて答申することができる。

○前二項の規定は、同項に掲げる事項に関する市町村長、その他の市町村の執行機関の法令の規定に基づく権限の行使を妨げない。

二 新農政の展開

○食料・農業・農村基本計画

平成一一年七月の、食料・農業・農村基本法制定を受け、平成一二年三月に、新基本法の四つの基本理念と、基本方向を具体化するための食料・農業・農村基本計画が策定された。

基本法の四つの基本理念

○食料の安定供給の確保

○多面的機能の発揮

○農業の持続的発展

○農村の振興

基本計画には、今後おおむね一〇年を見通し、食料自給率の目標や、政府が講ずべき施策などが定められており、政府としては、この計画に沿って、農業予算の抜本的見直しや、関係施策の枠組みづくりなどに取り組んでいくこととしている。

食料自給率の目標の達成をはじめとして、基本計画の実現を図るためには、政府はもとより、生産者・食品産業の事業者及び消費者、更には、地方公共団体や関係団体を含めた、関係者全員の取り組みが不可欠である。

したがって、食料・農業・農村をめぐる情勢や課題への理解を深め、国民参加型の取組を展開していくことが重要である。

○食料・農業・農村基本計画の構成

①食料・農業及び農村に関する施策についての基本方針

食料・農業・農村基本法の基本理念の実現を図るため、食料・農業及び農村に関する施策を、総合的かつ計画的に推進

②食料自給率の目標及び消費拡大

○平成二二年度までに食料自給率四五％を達成

この目標を達成するためには、農業者及び関係機関、団体はもとより、国民一人ひとりが、食料・農業・農村の持つ価値を再認識し、各界階層が総力をあげて取り組む。

○目標達成のための農地四七〇万ヘクタールの確保

とりわけ、耕作放棄地の解消などを通して、農地四七〇万ヘクタールを確保するとともに、一層の有効利用を図らなければならない。また、消費者・実需ニーズや、地域の条件を踏まえ、麦・大豆・飼料作物等の振興を図る。

○消費拡大

日本型食生活の推進や食の安全性の確保、国内農産物の消費拡大などに努める必要がある。また、地域で採れた作物を地域で消費する「地産地消」等の取り組み、「食」「農」についての教育やPRなどを一層推進する。

③食料・農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

○食料の安定供給の確保に関する施策

・食料の衛生管理及び品質管理の高度化

・食品の表示の適正化

・健全な食生活の指針の策定

・国内生産では需要を満たすことのできない、農産物の安定的な

輸入の確保

・不測時における食料安全保障等

○農業の持続的な発展に関する施策

・効率的かつ安定的な農業経営が、農業生産の相当部分を担う農業構造の確立

・経営意欲のある農業者による創意工夫を生かした農業経営の発展

・農地の確保及び有効利用

・人材の育成・確保及び女性・高齢者の活用の推進

・農業等に関する技術の開発及び普及

・需給事業及び品質評価を適切に反映した、農産物価格の形成と、農業経営の安定

・農業の自然環境機能の維持増進等

○農村の振興に関する施策

・農業の振興その他農村の総合的な振興（農業生産の基盤の整備と交通・情報通信・衛生・教育・文化等の生活環境の整備等）

・中山間地域等の振興（農業その他の振興による就業機会の増大、生活環境の整備による定住の促進、適切な農業生活活動が持続的に行われるよう、農業の生産条件等に関する不利を補正するための支援を行うこと等）

・都市と農村の交流促進、都市及びその周辺の地域における農業の振興等

④食料・農業・農村施策を総合的・計画的に推進するために必要な事項

・基本計画に従って、施策を実施するに当たっては、施策の評価と見直しの実施、財政措置の効率的・重点的な運用、情報の公開、国と地方の役割分担、国際規律との調和等に努力

・基本計画については、食料・農業・農村をめぐる情勢の変化、施策の効果に関する評価を踏まえ、おおむね五年ごとに見直す

以上のような内容が、基本計画には盛り込まれている。

年度別農業委員名簿

(平成一四年度一〇月より女性選任委員・議会推薦二名追加)

平成六年～八年	高橋 数徳	古谷 進一郎	水本 一美	菅 凱男	片岡 元春	松岡 豊喜	新谷 養一郎	井上 元春	上岡 頼康	高本 茂	坂口 鶴男	阪本 賢一	木下 久敬		
平成九年～一一年	高橋 通夫	古谷 進一郎	山田 三隆	石元 勲	大西 敏盛	渡部 重晴	新谷 養一郎	橋本 久吉	上岡 頼康	栄代 良比古	窪和久 義兼	阪本 賢一	木下 久敬		
平成一二年～一四年	宮本 續	西森 福夫	山田 三隆	櫻井 晴清	大西 敏盛	高岡 幸市	猪上 幸豊	箱岡 幸夫	岩市 幸尊	西田 義記	高橋 和子	井上 鈴枝	伊藤 忠興	綱田 忠章	木下 久敬
平成一五年～至現在	倉橋 豊	西森 福夫	栗下 正	漆田 伸幸	吉田 好輝	金子 義雄	高橋 昭登	篠原 擴	岩市 幸尊	小倉 恵美子	高橋 和子	井上 鈴枝	伊藤 忠興	綱田 忠章	木下 久敬

職員名簿

職名	氏名	職歴
事務局長	小椋 清隆	平成三年七月～平成八年三月
事務局長	田野 典孝	平成八年四月～現在

農地の移動状況

農地等の所有権移転処理状況（農地法第3条関係）

（単位 a）

区 分 年 度	自 作 地			
	農 地			
	有 償		無 償	
	件 数	面 積	件 数	面 積
6～10	155	142,383	76	239,171
11～15 (9月現在)	62	48,081	66	185,322
合 計	217	190,464	142	424,493

農地の転用状況（農地法第4条関係）

地目等 年 度	山 林		宅 地		雑 種 地	
	件 数	面 積	件 数	面 積	件 数	面 積
6～10	59	124,204	6	3,376	1	705
11～15 (9月現在)	25	57,248	8	3,001	3	2,741
合 計	84	181,452	14	6,377	4	3,446

所有権移転を伴う転用状況（農地法第5条関係）

地目等 年 度	山 林		宅 地		雑 種 地	
	件 数	面 積	件 数	面 積	件 数	面 積
6～10	7	9,041	18	9,572	4	3,178
11～15 (9月現在)	1	1,514	14	14,392	5	4,200
合 計	8	10,555	32	23,964	9	7,378

第四節 農業生産条件整備事業

一 土地改良事業（継続）

前編で述べたように、土地改良事業は、非常に広範多岐な分野に広がっており、一口に言えば、農業生産に対する条件整備である。昭和四八年度以降においては、農村の生活環境を農業基盤と一体的に整備する、農村の総合整備も、土地改良事業として、積極的にすすめられてきた。

農村総合整備計画については、農村整備計画の項で詳細記述する。

団体営土地改良事業（継続）

公共性が強い農業基本施設で、受益面積・その他条件の適合した地域では、農家負担が軽減できる団体営農道整備事業により、舗装で完了する走行性のよい農道が、年々数本ずつ開設されている。（実績別表のとおり）



惣津山二期団体営農道



棚田事業沢渡地区ほ場整備
着工前



完成

棚田地域保全整備事業（継続）

この事業は、棚田地域の不利な条件を緩和するために、実施する事業であり、村内では、沢渡地区の区画整理、用排水路の整備等をおこなっている。現在継続中である。事業実績は別紙のとおり。



大川豊久地区ほ場整備事業

県単独土地改良事業小農道舗装（継続）

前編で述べた以外に、新制度として、昭和五四年度創設された、小農道整備事業（舗装）は、各地域内の維持管理に、毎年多くの経費を必要とし、問題になっている。有効幅員一、二メートル以上二メートル未満の里道、および作業道を整備している。この制度の実現によって、いろいろな問題を解消し、生産・生活施設としての機能を発揮し、住民から高く評価され、別表のような実績をあげている。しかし、小農道整備事業は、県の予算の関係で、平成七年度で打ち切りとなった。



小農道舗装七鳥地区小農道

県単独土地改良事業（一般分継続）

前編で述べたように、小農道整備事業以外に、国費対象にならない事業を、県費補助で対応する事業として、基盤整備・農道新設・用排水路整備等の事業があり、美川村でも成果をあげている。別紙事業実績表のとおり。

二 農村総合整備モデル事業

農村の生産基盤整備を目的とし、併せて、環境の整備に重点をおいて、昭和四八年度に制度化された。

美川村は、この制度に基づき、昭和五三年三月、農村総合整備モデル事業計画を策定し、国土庁の認可を受け、モデル事業の指定村となった。事業内容を大きく分けると、農業生産基盤整備事業・農村環境整備事業・農村環境施設整備事業で、総事業費一三億四、〇〇〇万円は、本村始まって以来の指定事業である。事業の中には、農村環境改善センターの建築も含まれていた。事業の推進のために、農村整備課を設置した。

事業実施年度別実績は、別紙のとおりである。



県単独事業タニオク農道



防火水槽釣井地区



集落道整備赤土線



消火栓釣井地区



農村公園上黒岩

二 緊急県単事業・農業基盤啓発推進事業
(平成八年度のみ)

県単事業において、緊急に実施しなければならない事業について、特別予算を樹立し、基盤整備を行う事業であり、平成八年度のみ、特別県単予算にて対応した事業である。事業内容及び実績は別紙のとおりである。



大川下中地区ほ場整備



大川石本川農道整備

四 山村振興等農林漁業特別対策事業

新山村振興等農林漁業特別対策事業 山村等の中山間地域は、食料を供給する生産的機能だけでなく、国土の安全や水源の涵養、自然環境の保全など、多面的な機能を備えている。その価値は、近年になって益々高く評価されてきている。本事業は、山村等の振興を一層促進するため、様々な事業を総合的に実施する、国の事業である。本村では、昭和四十一年に、第一期（四二～四五）昭和四九年に、第二期（五〇～五三）昭和五五年に、第三期（五六～平成元）平成四年に、第四期（五～九・新山振）の選定を受け、多様な振興事業を実施してきた。（第三期までは過去の村誌を参照。第四期は別表参照。）

更に現在、第五期（一六～一九・新山村振興等農林漁業特別対策事業）の認定に向けて準備中である。

第五期対策においても、若者の定住、所得の向上を重点目標に、農業を基本とした地域産業を振興し、魅力ある地域づくりを進めていく計画である。



東川健康増進センター
（第四期山村振興等農林漁業特別対策事業）

新山村振興等農林漁業特別対策事業実施状況（第四期・H5～9）

事業区分	事業種目	事業内容	事業主体	受益戸数	事業量	事業費	国費	起債	村費	実施年度
山村振興等活性化推進事業	山村振興等活性化推進事業	山村等活性化ビジョン策定他	美川村	戸 1,171	一式	10,400,000 円	5,200,000 円		5,200,000 円	5～9
地域社会生活環境整備事業	生活環境整備事業	健康増進施設	美川村	戸 110	鉄骨1棟 680㎡	120,000,000 円	56,640,000 円	63,300,000 円	60,000 円	6
農林地利用・保全管理促進事業	農林地利用・保全管理促進事業	保全管理用機械・施設	美川村	戸 493	バックホー1台 ミニバックホー1台等	24,000,000 円	10,800,000 円	12,900,000 円	300,000 円	8



本組第二地すべり地区対策

農地保全事業の一環として実施されている、地すべり等防止法による対策事業は、村内の指定地域について、水路・排水路・水抜ボーリング・排水・暗渠・地すべり誘発防止のための床土工・護岸工・地すべりを直接防止する杭打工・土留工などの工事が、県営事業として実施されている。その事業は別紙のとおりである。

五 耕地地すべり対策事業（継続）



畦畔災害イシヨブネ

六 農地、農用施設災害復旧事業

地理的条件から、毎年のように災害に見舞われることが多く、災害が発生した場合、被災箇所の復旧と、二次災害防止のため諸施策に力を注いでいる。

前編で述べたように、災害復旧事業のうち、一般的なものは、暫定法によるものであるが、激甚災害に指定されると、高率補助となり、農家負担が軽減される。平成七年度以降の災害復旧は、別紙のとおりである。

七 干害応急対策事業

継続はなし。

八 農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業

(県営) (継続)

この事業は、広域にまたがる基幹となる農道の整備事業で、農業生産の近代化・生活の向上・農村環境の改善に資す、主要な役割を果たす県営の大型事業である。起点は、沢渡の国道三三号で、終点は、沢渡団体営農道へ接続する農道である。平成五年より平成一四年の工期で、延長一、一七二メートル、工事費一〇億四、七〇〇万円の事業費で完成した。



竣工式



沢渡地区農免農道記念碑



沢渡地区農道全景

これと平行して、日野浦地区農免農道が、起点を日野浦成河に始まり、本組經由で、終点を大谷として、延長四、七二七メートル・幅員五メートル・総事業費二七億四、九五〇万円で、平成二年度より、平成一七年度の計画で、事業実施がなされている。



日野浦地区農免農道全景



沢渡地区農免農道竣工



日野浦地区農免農道馬門付近



日野浦地区農免農道馬門付近



黒藤川地区集落道



大川地区集落道工事中

この事業は、県営事業で、中山間地域を広域的な（町村郡内）単位で、連携を持って行う事業である。美川村においては、集落を結ぶ農道の開設など事業種類も多く、中山間地域の基盤づくりとなる事業である。事業実績は、別紙のとおりで現在継続中である。

九 中山間地域総合整備事業（県営）（継続）



大谷地区ほ場整備
着工前



大谷地区ほ場整備
完成後

一〇 土地改良区（継続）

前編で述べたように、以前は、四土地改良区が設立されていたが、現在存続されているのは、東古味土地改良区のみであり、他は解散されている。存続改良区の事業内容は、別紙のとおりである。

県 営 農 免 農 道 事 業

実施 年度	工 種	地 区 名	事業 主体	事業量	総事業費	事 業 費 内 訳			請負業者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
6	農免農道	日 野 浦	愛媛県	W= 5.0m L= 30.0m 舗装 L= 741.5m	106,000,000 ^円	87,833,000 ^円	18,167,000 ^円	0 ^円	田村 守
〃	〃	沢 渡	〃	深層杭 N= 4本	84,800,000	70,266,000	14,534,000	0	村上 恒義
7	〃	日 野 浦	〃	橋梁上部工 L= 48.5m 舗装 L= 236m	82,574,000	68,422,000	14,152,000	0	澤井 正壽
〃	〃	日 野 浦 2 期	〃	道路 L= 63m 測試 1式 用買 1式	79,500,000	65,875,000	13,625,000	0	松本 清行 平柳 安得
〃	〃	沢 渡	〃	国道拡幅 L=80m 下部工(右岸) 道路 L= 28m	106,000,000	87,833,000	18,167,000	0	西山 公彦
8	〃	日 野 浦 2 期	〃	用買補償 測試 道 L= 169m	105,500,000	87,458,000	18,042,000	0	平柳 安得
〃	〃	沢 渡	〃	用買補償 左岸橋台 道 L= 375m	137,150,000	113,695,500	23,454,500	0	西山 公彦
9	〃	日 野 浦 2 期	〃	用買補償 測試 道 L= 73m	89,672,000	74,337,000	15,335,000	0	平柳 安得
〃	〃	日 野 浦 3 期	〃	用買補償 測試	10,550,000	8,745,500	1,804,500	0	松本 清行
〃	〃	沢 渡	〃	用買補償 橋梁上部工 工場製作	174,068,000	144,301,000	29,767,000	0	小澤 三敏
10	〃	日 野 浦 2 期	〃	用買補償 測試 道 L= 73m L= 59m	59,974,000	49,730,500	10,243,500	0	平柳 安得

10	農免農道	日野浦3期	愛媛県	用買補償 測試 道L= 103m	20,994,000	17,412,000	3,582,000	0	平柳 安得
〃	〃	沢 渡	〃	上部工1式 橋台取付擁壁	241,444,000	200,249,500	41,194,500	0	西山 公彦
11	〃	日野浦2期	〃	L= 414m W= 5.0m	136,500,000	113,208,000	23,292,000	0	平柳 安得
〃	〃	日野浦3期	〃	L= 164m W= 5.0m	52,500,000	43,541,500	8,958,500	0	〃
〃	〃	沢 渡	〃	L= 266m W= 5.0m	147,000,000	121,916,000	25,084,000	0	西山 公彦
12	〃	日野浦2期	〃	L= 488m W= 5.0m	167,832,000	139,207,000	28,625,000	0	平柳 安得
〃	〃	日野浦3期	〃	L= 353m W= 5.0m	104,896,000	87,005,000	17,891,000	0	高山 猛 平柳 安得
〃	〃	沢 渡	〃	L= 430m W= 5.0m	104,896,000	87,005,000	17,891,000	0	西山 公彦
13	〃	日野浦2期	〃	L= 100.0m L= 193.1m L= 114.7m 付帯工	178,496,000	148,038,500	30,457,500	0	平柳 安得
〃	〃	日野浦3期	〃	橋台 N= 2 L= 262.8m 橋梁上部工	115,498,000	95,790,000	19,708,000	0	高山 猛
〃	〃	日野浦4期	〃	L= 123.9m (暫定断面) W= 5.0m	104,998,000	87,081,500	17,916,500	0	西山 公彦
〃	〃	沢 渡	〃	法面保護 A= 2,371㎡ 雑工一式	31,498,000	26,123,500	5,374,500	0	〃
14	〃	〃	〃	舗装工 L=1,090m 農道付帯工一式	33,600,000	27,866,500	5,733,500	0	東 誠 西山 公彦

14	農免農道	日野浦2期	愛媛県	L= 559.1m	207,900,000	172,425,000	35,475,000	0	平柳 安得
〃	〃	日野浦3期	〃	L= 167.9m	52,500,000	43,541,500	8,958,500	0	高山 猛
〃	〃	日野浦4期	〃	L= 321.1m	105,000,000	87,083,000	17,917,000	0	西山 公彦
	合計				2,841,340,000	2,355,990,000	485,350,000	0	

中山間事業

実施年度	工種	地区名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						国県補助金	村費	地元負担金	
11	農道整備	黒藤川	愛媛県	L= 93m W= 4.0m	95,641,000	81,132,270	12,433,330	2,075,400	天野 萬久 西山 公彦
〃	〃	〃	〃	L= 66.9m W= 4.0m					
〃	集落道整備	〃	〃	L= 247.5m W= 4.0m					
〃	農道整備	ワトチ	〃	L= 279m W= 3.0m L= 281m W= 3.0m	95,138,000	80,414,400	12,535,600	2,188,000	高山 猛
12	〃	〃	〃	L= 122m W= 3.0m	15,049,000	12,720,050	1,952,950	376,000	〃
〃	ほ場整備	大谷	〃	A= 4.4ha	59,869,000	50,603,550	6,480,450	2,785,000	西山 公彦

12	集落道整備	黒 藤 川	愛媛県	L= 262m W= 4.0m	184,897,000	156,281,950	24,054,050	4,561,000	天野 萬久
				L= 249m W= 4.0m					西山 公彦
				L= 124m W= 4.0m					天野 萬久
13	〃	〃	〃	路体 L= 205m 付帯工一式	90,604,500	76,582,375	11,757,125	2,265,000	西山 公彦
〃	農道舗装	ワ ト チ	〃	L= 632m L= 632m	9,607,500	8,120,625	1,246,875	240,000	高山 猛 西山 周
〃	用排水路	黒 藤 川	〃	L= 628.6m L= 632.1m	17,031,000	14,395,250	1,954,750	681,000	山本 英二 天野 萬久
〃	ほ場整備	大 谷	〃	排水路 L= 177m	23,667,000	20,004,250	2,479,750	1,183,000	沼田 洋一
〃	集落道整備	沢 渡 先 場	〃	L= 349m W= 3.5m	52,206,000	44,126,500	6,654,500	1,425,000	西山 公彦
14	ほ場整備	大 谷	〃	付帯工一式	4,000,500	3,381,375	428,125	191,000	山本 英二 榊田 興一
〃	集落道整備	黒 藤 川	〃	付帯工一式 舗装工 L= 940m	29,799,000	25,187,250	3,867,750	744,000	西山 公彦 西山 周
〃	〃	沢 渡 先 場	〃	道路工 L= 16.9m	9,922,500	8,416,205	1,238,625	267,670	西山 公彦
〃	〃	大 川	〃	道路工 L= 80.0m 道路工 L= 116m	50,568,000	42,742,000	6,759,000	1,067,000	高山 猛
	合 計				738,000,000	624,108,050	93,842,880	20,049,070	

地すべり防止対策事業

実施年度	工種	地区名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						国県補助金	村費	地元負担金	
6	地すべり対策	ヤナギソ2期	愛媛県	排水路 L= 105.2m	15,000,000 ^円	15,000,000 ^円	0 ^円	0 ^円	高山 猛
〃	〃	本組第二	〃	排水路・承水路 L= 179.1m L= 67.9m	15,000,000	15,000,000	0	0	平柳幸次郎
〃	〃	筒城	〃	排水路 L= 97.3m	12,000,000	12,000,000	0	0	中岡 隆
〃	〃	大川上組	〃	排水路 L= 156.8m	12,000,000	12,000,000	0	0	高山 猛
7	〃	ヤナギソ2期	〃	1号排水路 L= 211m 2号排水路 L= 17.2m 水抜ボーリングN=18 L=690m N=4孔	35,000,000	35,000,000	0	0	高山 猛 神野 繹
〃	〃	大川上組	〃	承水路 L= 201.9m 1号床固 N= 1 フトン箆 L= 70m 水抜ボーリングN= 8	40,000,000	40,000,000	0	0	高山 猛 二神 久士
〃	〃	本組第二	〃	12号床固 N= 1 5号排水路 L=60.5m 観測業務N= 10孔	30,000,000	30,000,000	0	0	平柳 安得 神野 繹
〃	〃	筒城	〃	排水路 L= 179.5m 観測業務 N= 5孔	20,000,000	20,000,000	0	0	高岡 稔 神野 繹
〃	〃	トロメキ	〃	調査一式	10,000,000	10,000,000	0	0	村尾 恒義
8	〃	ヤナギソ2期	〃	床固工 N= 1 排水路工= 126m 水抜ボーリング N=9L= 300m	65,500,000	65,500,000	0	0	高山 猛 神野 繹
〃	〃	本組第二	〃	排水路 L= 104.7m 床固工 N= 1	17,000,000	17,000,000	0	0	平柳 安得

8	地すべり対策	大川上組	愛媛県	承水路L= 72.1m 承水路L= 404.9m 床固工一式	28,000,000	28,000,000	0	0	高山 猛
〃	〃	筒城	〃	承水路L= 313.3m 排水路L= 91.7m	33,000,000	33,000,000	0	0	高岡 稔
〃	〃	トロメキ	〃	水抜ボーリング N=11L= 362m アンカー N=21L= 451m	56,000,000	56,000,000	0	0	村尾 恒義
9	〃	ヤナギソ2期	〃	水抜ボーリング L= 360m	10,548,000	10,548,000	0	0	角田 実
〃	〃	本組第二	〃	水路工 L= 431m 水抜ボーリング L= 431m	42,186,000	42,186,000	0	0	平柳 安得
〃	〃	大川上組	〃	水路工 L= 237m 水抜ボーリング L= 385m	21,094,000	21,094,000	0	0	高山 猛
〃	〃	筒城	〃	水路工 L= 704m	31,642,000	31,642,000	0	0	高岡 春彦
〃	〃	トロメキ	〃	アンカー工 N= 11本	21,098,000	21,098,000	0	0	村尾 恒義
10	〃	ヤナギソ2期	〃	水路工 L= 227m 水抜ボーリング L= 490m	26,788,000	26,788,000	0	0	高山 猛
〃	〃	本組第二	〃	水路工 L= 81m 水路工 L= 114m	20,998,000	20,998,000	0	0	平柳 安得
〃	〃	大川上組	〃	床固 N= 1式 排水路工 L= 55.4m	16,410,000	16,410,000	0	0	高山 猛
〃	〃	筒城	〃	水路工 L= 57m 水抜ボーリング L= 375m 護岸工事 L= 33m	22,676,000	22,676,000	0	0	高岡 隆
〃	〃	トロメキ	〃	水路工 L= 588m	19,001,025	19,001,025	0	0	天野 萬久

11	地すべり対策	ヤナギソ2期	愛媛県	水路工 L= 60m 水抜ボーリング L= 420m	20,992,000	20,992,000	0	0	高山 猛
〃	〃	本組第二	〃	アンカー工1式 水路工 L= 556m	69,276,000	69,276,000	0	0	平柳 安得
〃	〃	大川上組	〃	床固 N= 3式 排路工 L= 96m	36,720,000	36,720,000	0	0	高山 猛
〃	〃	筒城	〃	水路工 L= 446m	24,142,000	24,142,000	0	0	高岡 隆
〃	〃	トロメキ	〃	排ボ L= 220m 水路工 L= 253m 床固工 N= 1	47,228,000	47,228,000	0	0	天野 萬久
12	〃	本組第二	〃	排水路工 L= 182m L= 139m L= 119m L= 265m	68,248,000	68,248,000	0	0	平柳 安得 高山 猛 平柳 安得 西山 公彦
〃	〃	大川上組	〃	集水暗渠L= 42.0m 水抜きボーリング 3本 L= 90m	5,250,000	5,250,000	0	0	高山 猛 大石 恭司
〃	〃	筒城	〃	排水路工 L= 152m	10,500,000	10,500,000	0	0	高岡 春彦
〃	〃	ヤナギソ2期	〃	集水暗渠 L= 159m	9,040,000	9,040,000	0	0	高山 猛
〃	〃	トロメキ	〃	集水井戸 N= 1基	20,998,000	20,998,000	0	0	村尾 恒義
13	〃	本組第二	〃	排水路 L= 156.7m 承水路 L= 313.9m 承排水路L= 304.6m 承水路 L= 477.1m 水抜きボーリング N= 12 取付水路 L= 51m	56,690,000	56,690,000	0	0	平柳 安得 新野 保 大野 守也 羽澤清二郎 益田 信 大野 匠未
〃	〃	筒城	〃	水抜きボーリング N= 6 付帯工事一式	5,248,000	5,248,000	0	0	小野 誠 高岡 春彦

13	地すべり対策	ト ロ メ キ	愛媛県	排水ボーリング N= 23本	15,744,000	15,744,000	0	0	大野 忠喜
14	〃	日野浦本組2期	〃	集水井工1基 承水路工 L= 280.4m 水抜きボーリング N=3L= 100m	43,575,000	43,575,000	0	0	河野 邦彦 山本 英二 菅 忠志
〃	〃	ト ロ メ キ	〃	水抜きボーリング N=11L= 275m	5,985,000	5,985,000	0	0	阪本 公興
	合 計				1,060,577,025	1,060,577,025	0	0	

県 営 災 害 事 業

実施 年度	工 種	地 区 名	事業 主体	事業量	総事業費	事 業 費 内 訳			請負業者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
9	農免	日 野 浦	愛媛県	L= 64m (アンカー)	4,162,000円 92,509,000	3,433,500円 92,323,500	728,500円 185,500	円 0	前山 浩伸
〃	水路	ヤナギソ地込	〃	L= 67.8m (水路)	12,460,000	12,460,000	0	0	高山 猛
10	農免	日 野 浦	〃	L= 64m	358,000 13,644,000	295,350 13,609,890	62,650 34,110	0	前山 浩伸
〃	〃	本組第二地込	〃	L= 66.7m (水路)	2,726,000	2,726,000	0	0	平柳 安得
	合 計				125,859,000	124,848,240	1,010,760	0	

県営事業ため池整備

実施年度	工種	地区名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						国県補助金	村費	地元負担金	
13	ため池整備	赤蔵ヶ池	愛媛県	ため池工事 L= 29.0m	25,200,000 ^円	18,900,000 ^円	6,000,000 ^円	300,000 ^円	露口 育夫
14	〃	〃	〃	ため池工事 L= 29.0m	3,150,000	2,362,500	787,500	0	〃
	合計				28,350,000	21,262,500	6,787,500	300,000	

団体営農道整備事業

実施年度	工種	地区名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						国県補助金	村費	地元負担金	
6	農道整備	沢渡	美川村	L= 66.2m W= 4.0m	17,300,000 ^円	10,350,000 ^円	6,251,000 ^円	699,000 ^円	西山 公彦
〃	農道舗装	〃	〃	L= 360m W= 4.0m	7,000,000	4,200,000	2,590,000	210,000	東 進
〃	〃	〃	〃	L= 1,253.4m W= 4.0m	30,300,000	18,150,000	11,241,000	909,000	〃
8	農道整備	惣津山	〃	L= 179.1m W= 4.0m	47,794,000	28,629,000	17,732,000	1,433,000	高山 猛
〃	〃	〃	〃	L= 159.1m W= 4.0m	30,300,000	18,150,000	11,241,000	909,000	〃
〃	農道舗装	沢渡宮前	〃	L= 1,227.3m W= 3.5m	32,320,000	16,160,000	15,845,000	315,000	東 進

9	農道整備	惣津山	美川村	L= 153.9m W= 4.0m	40,400,000	24,200,000	14,988,000	1,212,000	高山 猛
〃	農道舗装	〃	〃	L= 492.1m W= 4.0m	10,100,000	6,050,000	3,747,000	303,000	田村 守
〃	農道整備	惣津山 2 期	〃	L= 23.4m W= 4.0m	12,213,200	7,915,600	3,931,600	366,000	高山 猛
10	〃	〃	〃	L= 200.4m W= 4.0m	63,340,440	41,075,220	20,365,220	1,900,000	〃
11	〃	〃	〃	L= 38.6m W= 4.0m	10,087,000	6,556,550	3,228,450	302,000	〃
〃	法面アンカー	〃	〃	L= 24.7m W= 4.0m	34,743,000	22,582,900	11,118,100	1,042,000	小野 俊夫
〃	〃	〃	〃	L= 52.0m W= 4.0m	20,922,810	13,599,800	6,696,010	627,000	〃
12	〃	〃	〃	L= 60.4m	24,604,000	15,992,600	7,873,400	738,000	〃
〃	農道整備	〃	〃	L= 98.8m W= 4.0m	5,665,000	3,682,250	1,812,800	169,950	高山 猛
13	〃	〃	〃	L= 87.1m W= 4.0m	13,534,000	8,777,000	4,351,000	406,000	〃
〃	〃	〃	〃	L= 43.4m W= 4.0m	5,170,000	3,352,850	1,662,150	155,000	〃
〃	農道舗装	〃	〃	L= 477.9m W= 4.0m	9,560,000	6,199,150	3,073,850	287,000	西山 周
〃	ほ場整備	大 川	〃	A= 1.9ha	33,373,557	25,000,250	6,102,750	2,270,557	高山 猛

13	農道舗装	大川	美川村	N= 3路線 L= 905.9m	16,951,000	12,668,250	4,263,750	19,000	西山 周
14	ほ場整備	〃	〃	A= 1.9ha	6,740,000	5,038,500	1,230,500	471,000	高山 猛
〃	水路改修	〃	〃	L= 28.7m	2,352,000	1,757,500	477,500	117,000	〃
〃	〃	〃	〃	L= 140.1m	3,738,000	2,794,000	758,000	186,000	〃
	合 計				478,508,007	302,881,420	160,580,080	15,046,507	

棚田地域等緊急保全対策事業

実施年度	工 種	地 区 名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
10	農道整備	河 成	美川村	L= 175.0m W= 3.5m	40,163,000 ^円	30,081,500 ^円	9,077,500 ^円	1,004,000 ^円	平柳 安得
〃	〃	本 組	〃	L= 220m L= 53.9m L= 20.0m L= 178.1m	45,072,000	33,758,000	10,312,000	1,002,000	〃
〃	農道舗装	本 組 西	〃	L= 221.1m W= 3.0m	4,567,000	3,419,750	1,010,250	137,000	田村 守
〃	〃	〃	〃	L= 175.1m W= 3.0m	3,615,000	2,707,500	813,500	94,000	〃
〃	水路改修	タ ニ オ ク	〃	L= 100.3m トラフ300B	1,841,000	1,378,250	334,750	128,000	平柳 安得
〃	農道舗装	日 野 浦 本 組	〃	L= 363.9m W= 3.0m	8,340,000	6,245,000	1,845,000	250,000	田村 守

10	農道舗装	タニオク	美川村	L= 170.0m W= 3.0m	4,902,000	3,670,250	1,084,750	147,000	平柳 安得
〃	〃	河成	〃	L= 279.2m W= 3.5m	5,811,000	4,350,750	1,286,250	174,000	田村 守
〃	〃	本組下	〃	L= 276.1m W= 3.5m	11,094,000	8,311,750	2,782,250	0	〃
〃	小農道舗装	本組西	〃	L= 64.9m W= 1.2m	1,666,000	1,248,000	319,000	99,000	平柳 安得
〃	〃	後藤	〃	L= 51.6m W= 2.0m	420,000	314,500	80,500	25,000	〃
〃	防火水槽	本組西	〃	コンクリート V= 40m ³	5,108,000	3,825,250	1,180,750	102,000	〃
11	用排水路	ジデン	〃	L= 61.5m 300×300	1,054,000	789,500	212,500	52,000	高岡 春彦
〃	〃	共省	〃	L= 176.3m 管水路φ450	9,207,000	6,896,000	1,851,000	460,000	〃
〃	小農道舗装	大上	〃	L= 136.5m W= 1.2m~2.0m	2,118,000	1,586,500	404,500	127,000	〃
〃	防火水槽	東古味	〃	V= 40m ³ N= 1基	7,701,000	5,768,000	1,779,000	154,000	中岡 隆
〃	農道整備	西古味テラノタニ	〃	L= 153.2m W= 3.0m	35,142,000	26,321,000	7,806,000	1,015,000	高岡 春彦
13	ほ場整備	沢渡	〃	A= 1.3ha	8,234,000	6,167,000	2,067,000	0	西山 公彦
14	農道舗装	〃	〃	L= 143.1m	3,344,000	2,504,750	839,250	0	東 誠

14	区画整理	沢	渡	美川村		8,135,000	6,093,000	1,473,000	569,000	西山 公彦
〃	換地	〃	〃	〃		1,134,000	849,250	205,750	79,000	梶田 興一
〃	暗渠工	〃	〃	〃		1,445,000	1,082,250	261,750	101,000	西山 公彦
〃	水路改修	〃	〃	L= 100.4m		1,806,000	1,352,750	363,250	90,000	〃
	合 計					211,919,000	158,720,500	47,389,500	5,809,000	

農村総合整備モデル事業

実施 年度	工 種	地 区 名	事業 主体	事業量	総事業費	事 業 費 内 訳			請負業者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
6	農道整備	中 黒 岩	美川村	L= 265.4m W= 3.5m	35,818,700 ^円	24,976,090 ^円	9,373,610 ^円	1,469,000 ^円	露口 育夫 土居 勝竹外3名
〃	〃	赤 土	〃	L= 91.9m W= 3.5m	40,703,000	28,411,500	11,422,500	869,000	露口 育夫
〃	農道舗装	下 土 居	〃	L= 123.5m W= 3.5m	4,242,000	2,961,000	1,154,000	127,000	田村 守
〃	〃	沢 渡 中	〃	L= 324.3m W= 3.5m	7,979,000	5,569,500	2,170,500	239,000	東 進
〃	排水路改修	蕨 打	〃	L= 188.1m	6,565,000	4,582,500	1,523,500	459,000	高山 猛
7	集落道整備	赤 土	〃	L= 244.3m W= 3.5m	40,400,000	28,200,000	10,988,000	1,212,000	露口 育夫

7	集落道整備	中 黒 岩	美川村	L= 92.5m W= 3.5m	30,199,000	21,079,500	8,213,500	906,000	露口 育夫
〃	〃	〃	〃	L= 37.1m W= 3.5m	21,513,000	15,016,500	5,851,500	645,000	〃
〃	防火水槽	先 場	〃	取水壁 N= 1基 水槽 V= 41m ³ 配水管 L=535.5m 消火栓 N= 5基	22,725,000	15,862,500	6,408,500	454,000	天野 萬久
〃	〃	釣 井	〃	取水壁 N= 1基 水槽 V= 50m ³ 配水管 L=979.8m 消火栓 N= 13基	23,432,000	16,356,000	6,608,000	468,000	〃
〃	集落道整備	赤 土	〃	L= 213.3m W= 3.5m	63,428,000	44,274,000	17,251,000	1,903,000	露口 育夫
〃	集落道舗装	中 黒 岩	〃	L= 105.4m W= 3.5m	2,323,000	1,621,500	632,500	69,000	田村 守
8	集落道整備	赤 土	〃	L= 236.8m W= 3.5m	65,448,000	45,684,000	17,801,000	1,963,000	露口 育夫
〃	〃	〃	〃	L= 83.6m W= 3.5m	29,694,000	20,727,000	8,077,000	890,000	〃
〃	集落道舗装	中 黒 岩	〃	L= 226.5m W= 3.5m	4,444,000	3,102,000	1,209,000	133,000	田村 守
〃	農業排水路	豊 久	〃	トラフ300B L= 224.8m	7,474,000	5,217,000	1,734,000	523,000	高山 猛
〃	〃	惣 津 山	〃	トラフ300B L= 128.1m	3,636,000	2,538,000	844,000	254,000	〃

8	集落排水路	中	村	美川村	コンクリート三方張 L= 94.8m	10,504,000	7,332,000	2,437,000	735,000	高岡 稔
〃	農村公園	上	黒	岩	〃 トイレ1棟 進入路 L= 52.1m	10,100,000	5,050,000	5,050,000	0	西山 公彦
9	集落道舗装	赤	土	〃	L= 1,469.0m W= 3.5m	41,410,000	28,905,000	11,263,000	1,242,000	田村 守
	合 計					472,037,700	327,465,590	130,012,110	14,560,000	

県単土地改良事業

実施 年度	工 種	地 区 名	事業 主体	事業量	総事業費	事 業 費 内 訳			請負業者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
6	農道整備	タニオク	美川村	L= 46.9m W= 3.5m	15,500,000 ^円	7,750,000 ^円	7,363,000 ^円	387,000 ^円	平柳 安得
〃	〃	上 谷	〃	L= 126.4m W= 3.0m	15,000,000	7,500,000	7,125,000	375,000	西山 公彦
〃	〃	天 神 中	〃	L= 47.3m W= 3.5m	15,000,000	7,500,000	7,125,000	375,000	天野 萬久
〃	水路改修	上 本 組	〃	L= 150.2m	4,100,000	1,640,000	2,173,000	287,000	西山 公彦
〃	〃	沢 渡	〃	L= 31.7m	5,100,000	2,040,000	2,703,000	357,000	〃
〃	〃	大 川	〃	L= 45.8m	1,200,000	480,000	636,000	84,000	高山 猛
〃	農道舗装	〃	〃	L= 145m W= 3.0m	1,870,000	935,000	861,000	74,000	田村 守

6	農道舗装	日野浦西組	美川村	L= 217.9m W= 3.0m	5,000,000	2,500,000	2,350,000	150,000	田村 守
〃	〃	ナガノジ東	〃	L= 103.0m W= 3.0m	1,330,000	665,000	626,000	39,000	〃
〃	小農道舗装	大川上組	〃	L= 195.8m	2,300,000	1,150,000	1,012,000	138,000	高山 猛
〃	〃	七 鳥	〃	L= 150.0m W= 1.95m	4,000,000	2,000,000	1,760,000	240,000	中岡 隆
〃	〃	有枝中通	〃	L= 125.0m	2,000,000	1,000,000	880,000	120,000	西山 公彦
〃	〃	稲ヶ市	〃	L= 98.1m W= 1.95m	2,000,000	1,000,000	880,000	120,000	高山 猛
7	農道整備	タニオク	〃	L= 113.3m W= 3.5m	25,000,000	12,500,000	11,875,000	625,000	平柳 安得
〃	〃	上 谷	〃	L= 26.7m W= 3.0m	6,000,000	3,000,000	2,850,000	150,000	西山 公彦
〃	〃	天神中	〃	L= 138.9m W= 3.5m	30,000,000	15,000,000	14,250,000	750,000	天野 萬久
〃	水路改修	上 本 組	〃	L= 143.1m	3,000,000	1,200,000	1,590,000	210,000	西山 公彦
〃	農道舗装	日野浦西組	〃	L= 401.1m W= 3.0m	11,700,000	5,850,000	5,499,000	351,000	田村 守
8	農道整備	タニオク	〃	L= 64.4m W= 3.5m	21,800,000	10,900,000	10,355,000	545,000	平柳 安得
〃	〃	天神中	〃	L= 27.5m W= 3.5m	15,000,000	7,500,000	7,125,000	375,000	天野 萬久

8	農道整備	本組下	美川村	L= 144.8m W= 3.5m	40,000,000	20,000,000	20,000,000	0	平柳 安得
〃	農道舗装	日野浦西組	〃	L= 234.0m W= 3.0m	7,000,000	3,500,000	3,290,000	210,000	田村 守
〃	〃	上谷	〃	L= 153.1m W= 3.0m	2,200,000	1,100,000	1,034,000	66,000	〃
9	農道整備	タニオク	〃	L= 20.9m W= 3.5m	9,000,000	4,500,000	4,275,000	225,000	平柳 安得
〃	〃	本組下	〃	L= 131.3m W= 3.5m	41,000,000	20,500,000	20,500,000	0	〃
〃	〃	ナール	〃	L= 61.0m W= 3.0m	7,000,000	3,500,000	3,290,000	210,000	中岡 隆
〃	農道舗装	日野浦西組	〃	L= 332.8m W= 3.0m	9,000,000	4,500,000	4,230,000	270,000	田村 守
〃	〃	天神中	〃	L= 213.7m W= 3.5m	3,600,000	1,800,000	1,692,000	108,000	〃
10	農道整備	ナール	〃	L= 43.7m W= 3.0m	4,600,000	2,300,000	2,162,000	138,000	中岡 隆
〃	農道舗装	タニオク	〃	L= 415.3m W= 3.5m	8,200,000	4,100,000	3,854,000	246,000	田村 守
11	〃	ナール	〃	L= 104.7m W= 3.0m	1,300,000	650,000	611,000	39,000	東 誠
〃	〃	藤社下	〃	L= 112.5m W= 3.0m	1,400,000	700,000	672,000	28,000	田村 守
〃	水路改修	上本組	〃	L= 216.5m 300×300	5,000,000	2,000,000	2,750,000	250,000	西山 公彦

12	水路改修	上 本 組	美川村	L= 205.7m 0.3×0.3m	7,500,000	3,000,000	4,125,000	375,000	西山 公彦
〃	〃	ホ ラ ガ 谷	〃	L= 112.5m	8,000,000	3,200,000	4,400,000	400,000	高岡 春彦
〃	農道整備	共 省	〃	L= 216.5m W= 3.0m	5,000,000	2,500,000	2,400,000	100,000	〃
〃	ほ場整備(換地)	田 渡 野 瀬	〃	A= 1.4ha	1,653,000	991,800	545,200	116,000	舛田 興一
〃	〃	〃	〃	A= 1.3ha	19,347,000	11,608,200	6,384,800	1,354,000	高山 猛
〃	農道舗装	大 川	〃	L= 464.7m W= 4.0m	9,000,000	4,500,000	4,500,000	0	西山 周
〃	〃	惣 津 山	〃	L= 224.3m W= 3.0m	3,300,000	1,650,000	1,584,000	66,000	〃
13	ほ場整備	田 渡 野 瀬	〃	A= 1.2ha	1,678,000	1,006,800	553,740	117,460	高山 猛
14	農道整備	宮 成 三 岩	〃	L= 144.5m W= 3.5m	14,100,000	7,050,000	6,768,000	282,000	天野 萬久
	合 計				395,778,000	196,766,800	188,658,740	10,352,460	

県 単 小 農 道 舗 装

実施 年度	工 種	地 区 名	事業 主体	事業量	総事業費	事 業 費 内 訳			請負業者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
7	小農道舗装	七 鳥	美川村	L= 96.8m W= 1.95m	1,900,000 ^円	950,000 ^円	836,000 ^円	114,000 ^円	中岡 隆

7	小農道舗装	稲ヶ市	美川村	L= 107.9m W= 1.90m	1,900,000	950,000	836,000	114,000	高山 猛
8	〃	有枝本村	〃	L= 214.3m W= 1.20m	2,400,000	1,200,000	1,056,000	144,000	中岡 隆
〃	〃	木地谷	〃	L= 159.5m W= 1.95m	2,500,000	1,250,000	1,100,000	150,000	天野 萬久
〃	〃	大川下中	〃	L= 75.3m W= 1.20m	1,100,000	550,000	484,000	66,000	高山 猛
	合計				9,800,000	4,900,000	4,312,000	588,000	

緊急県単事業・農業基盤啓発推進事業

実施年度	工種	地区名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						国県補助金	村費	地元負担金	
8	ほ場整備	大川下中	美川村	A= 0.8ha	12,700,000 ^円	7,620,000 ^円	3,810,000 ^円	1,270,000 ^円	高山 猛 村上 悦三 岡田 己宜
〃	用排水路	宮中	〃	99.0m トラフ300B L= 295.2m	9,500,000	5,700,000	3,135,000	665,000	高山 猛
〃	〃	下中	〃	133.7m トラフ600×600					
〃	〃	三王	〃	62.5m ベンチ400×260					
〃	農道舗装	石本川	〃	L= 138.6m W= 3.0m	3,800,000	2,280,000	1,368,000	152,000	田村 守
	合計				26,000,000	15,600,000	8,313,000	2,087,000	

農地農業用施設災害復旧事業

実施年度	工種	地区名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						国県補助金	村費	地元負担金	
6	畦畔	大川中通	美川村	A= 0.10ha L= 14.0m	1,060,000 ^円	906,300 ^円	47,700 ^円	106,000 ^円	高山 猛
〃	〃	田渡野瀬	〃	A= 0.06ha L= 4.0m	424,000	362,520	19,480	42,000	西山 公彦
〃	〃	ジデン	〃	A= 0.06ha L= 19.0m	1,591,000	1,360,305	71,695	159,000	高岡 稔
〃	〃	成の池	〃	A= 0.06ha L= 12.0m	710,000	607,050	31,950	71,000	中岡 隆
〃	〃	佐藤	〃	A= 0.08ha L= 8.0m	689,000	589,095	31,905	68,000	高岡 稔
〃	〃	西村	〃	A= 0.05ha L= 6.0m	901,000	770,355	40,645	90,000	〃
7	〃	堤	〃	A= 0.07ha L= 4.0m	498,000	455,172	828	42,000	西山 公彦
〃	農道	上ダバ	〃	L= 6.0m W= 3.5m	869,000	842,930	26,070	0	〃
8	〃	梶家	〃	L= 5.0m W= 1.5m	1,697,000	1,601,968	32	95,000	〃
9	畦畔	イショブネ	〃	6ヵ所 A= 0.36ha L= 45.0m	4,434,000	4,287,678	322	146,000	高岡 稔
〃	〃	井手口	〃	A= 0.05ha L= 5.0m	648,000	626,616	384	21,000	〃

9	畦畔	東古味中組	美川村	A= L=	0.04ha 5.0m	918,000	887,706	294	30,000	高岡 稔
〃	〃	イノヤシキ	〃	A= L=	0.04ha 5.0m	594,000	574,398	602	19,000	西山 公彦
〃	〃	西古味	〃	A= L=	0.02ha 5.0m	1,059,000	967,000	0	92,000	高岡 稔
〃	〃	養川	〃	A= L=	0.03ha 8.0m	864,000	835,488	512	28,000	西山 公彦
〃	〃	高山	〃	A= L=	0.03ha 9.0m	918,000	887,706	294	30,000	中岡 隆
〃	〃	ジデン	〃	A= L=	0.03ha 13.0m	1,080,000	986,340	660	93,000	高岡 稔
〃	〃	筒城	〃	4ヶ所 A= L=	0.10ha 49.0m	4,148,000	4,011,116	884	136,000	〃
〃	〃	置俵	〃	4ヶ所 A= L=	0.16ha 47.0m	1,211,000	1,171,037	963	39,000	天野 萬久
〃	〃	日野浦本組	〃	A= L=	0.05ha 5.0m	79,000	76,393	607	2,000	平柳 安得
〃	〃	大谷	〃	A= L=	0.04ha 11.0m	352,000	340,384	616	11,000	〃
〃	〃	田渡野瀬	〃	A= L=	0.08ha 18.0m	2,811,000	2,718,237	763	92,000	高山 猛
〃	〃	大川上組	〃	A= L=	0.11ha 8.0m	594,000	574,398	602	19,000	〃
〃	農道	ナルの池	〃	L= W=	9.0m 1.8m	1,568,000	1,561,728	272	6,000	中岡 隆

9	水路	筒 城	美川村	L= 20.0m トラフ300B	1,582,000	1,575,672	328	6,000	高岡 稔
〃	〃	黒 藤 川 上	〃	コン擁壁 L= 12.0m	1,405,000	1,399,380	620	5,000	天野 萬久
〃	〃	置 俵	〃	積みブロック L= 36.0m	4,087,000	4,070,652	348	16,000	〃
〃	〃	本 組	〃	積みブロック L= 5.0m	406,000	404,376	624	1,000	平柳 安得
〃	農道	土 屋 峰	〃	L= 107.0m W= 1.8m	1,514,000	1,507,944	6,056	0	田村 守
〃	〃	大 谷	〃	L= 11.0m W= 1.3m	2,134,000	2,125,464	536	8,000	平柳 安得
〃	〃	簗 川	〃	L= 6.0m W= 1.3m	918,000	914,328	672	3,000	西山 公彦
10	農道転石破碎	元 井 谷	〃	L= 5.0m	315,000	0	303,000	12,000	天野 萬久
〃	畦畔	イ シ ョ ブ ネ	〃	A= 0.15ha L= 21.0m	1,838,000	1,760,804	196	77,000	高岡 稔
〃	〃	大 川	〃	A= 0.09ha L= 13.0m	1,297,000	1,242,526	474	54,000	高山 猛
〃	農道	惣 津 山	〃	L= 6.0m W= 1.6~1.9m	1,243,000	1,236,785	215	6,000	〃
11	畦畔	イ シ ョ ブ ネ	〃	A= 0.04ha L= 15.0m	1,080,000	1,054,080	920	25,000	中岡 隆
〃	〃	山 崎	〃	A= 0.06ha L= 13.0m	2,054,000	1,817,790	93,210	143,000	〃

11	畦畔	大谷	美川村	A= L=	0.06ha 25.0m	3,202,000	2,833,770	144,230	224,000	西山 公彦
〃	〃	成の池	〃	A= L=	0.02ha 5.0m	486,000	474,336	664	11,000	中岡 隆
〃	〃	室崎	〃	A= L=	0.07ha 4.0m	539,000	526,064	936	12,000	西山 公彦
〃	農道	大川	〃	L= W=	5.0m 4.0m	864,000	852,768	11,232	0	高山 猛
〃	水路	大川ウナギブチ	〃	L=	5.0m	399,000	0	380,000	19,000	天野 萬久
〃	〃	アタラシダニ	〃	L=	2.0m	147,000	0	140,000	7,000	〃
12	畦畔	東川	〃	A= L=	0.06ha 5.0m	594,000	556,578	422	37,000	高岡 春彦
〃	小農道	中村	〃	L= W=	7.0m 1.2m	1,405,000	1,385,330	670	19,000	〃
13	畦畔	黒藤川	〃	A= L=	0.07ha 8.0m	2,146,000	1,862,728	133,272	150,000	天野 萬久
〃	〃	本組中	〃	A= L=	0.07ha 4.0m	810,000	703,080	50,920	56,000	平柳 安得
〃	〃	イシヨブネ	〃	A= L=	0.08ha 9.0m	1,080,000	937,440	67,560	75,000	高岡 春彦
〃	〃	大谷	〃	A= L=	0.05ha 10.0m	1,297,000	1,125,796	81,204	90,000	西山 公彦
〃	〃	本組	〃	A= L=	0.10ha 7.0m	1,101,000	955,668	68,332	77,000	平柳 安得

13	畦畔	上組	美川村	A= 0.11ha L= 6.0m	486,000	421,848	30,152	34,000	高山 猛
	合計				64,146,000	59,747,127	1,794,873	2,604,000	

村単災害復旧事業

実施年度	工種	地区名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						国県補助金	村費	地元負担金	
13	農道舗装路面	釣井	美川村	A= 152㎡ L= 56.4m	398,000 ^円	0 ^円	398,000 ^円	0 ^円	西山 周
〃	〃	沢渡宮前	〃	A= 46㎡ L= 14.2m	106,000	0	106,000	0	東 誠
〃	〃	蕨打	〃	A= 227㎡ L= 69.3m	583,000	0	583,000	0	西山 周
〃	農道	田之元	〃	W= 1.3m L= 2.5m	189,000	0	182,000	7,000	平柳 安得
〃	水路	大川下中	〃	L= 3.5m	61,000	0	57,000	4,000	高山 猛
〃	農免舗装路面	日野浦	〃	A= 96.5㎡ L= 27.8m	242,000	0	242,000	0	西山 周
〃	水路	長瀬	〃	L= 15m	420,000	0	387,000	33,000	中岡 隆
〃	〃	惣津山	〃	L= 5.0m	73,500	0	68,500	5,000	西山 公彦
	合計				2,072,500	0	2,023,500	49,000	

村単独事業

実施年度	工種	地区名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						国県補助金	村費	地元負担金	
6	農道舗装修繕	上ダバ・堤	美川村	ガードレール L= 58.0m 舗装 8㎡	412,000 ^円	0 ^円	412,000 ^円	0 ^円	田村 守
7	〃	蔵打	〃	L= 64.5m A= 148㎡	927,000	0	927,000	0	〃
〃	交差点改良	内分	〃	L= 7.9m	720,000	0	702,000	18,000	西山 公彦
〃	管水路布設	古味	〃	L= 67.2m	1,103,000	0	0	1,103,000	藤本 幹翁
8	農道安全施設	沢渡	〃	ガードレール L= 104.0m	1,100,000	0	1,067,000	33,000	中岡 隆
〃	橋塗装	大川出口	〃	L= 23.4m A= 130㎡	978,500	0	978,500	0	銀岡 良幸
〃	農道舗装修繕	大谷中	〃	L= 60m A= 252㎡	824,000	0	824,000	0	田村 守
〃	農道安全施設	上ダバ	〃	ガードレール L= 61.2m	353,000	0	353,000	0	西山 公彦
〃	農道集水柵改修	二籠中	〃	集水柵 1基 標識 1枚	180,000	0	180,000	0	天野 萬久
9	農道交差点改修	蔵打	〃	L= 3.9m	892,000	0	892,000	0	高山 猛
〃	小農道舗装	梨の下	〃	L= 128.0m W= 1.2m	719,000	0	633,000	86,000	〃

9	小農道舗装	宮 の 下	美川村	L= 148.6m W= 1.5m	748,000	0	659,000	89,000	西山 公彦
〃	〃	堂 の 前 上 常	〃	L= 222.6m W= 1.2~2.0m	1,733,000	0	1,526,000	207,000	〃
〃	農道舗装修繕	置 俵 ・ 藤 社 中	〃	L= 172.1m A= 311㎡	1,257,000	0	1,257,000	0	東 誠
〃	農道排水処理	上 田	〃	L= 17.0m	299,250	0	276,250	23,000	高岡 稔
〃	水路改修	堤	〃	L= 5.3m	504,000	0	464,000	40,000	西山 公彦
10	農道取付護岸改修	大 谷	〃	L= 3.4m	183,000	0	183,000	0	平柳 安得
〃	農道舗装修繕	箕 川 ・ 大 川	〃	L= 22.3m	226,000	0	226,000	0	東 誠
〃	小農道舗装	中 村	〃	L= 81.5m W= 2.0m	764,000	0	673,000	91,000	高岡 稔
〃	農道修繕	釣 井	〃	L= 8.1m W= 3.5m	180,000	0	180,000	0	天野 萬久
〃	農道舗装修繕	大川下組・仕出	〃	L= 39.2m A= 122㎡	550,000	0	550,000	0	田村 守
11	側溝修繕	沢 渡 宮 前	〃	L= 18.0m	353,000	0	353,000	0	西山 公彦
〃	吊橋修繕	沢 渡	〃	L= 14.5m N= 121枚	451,000	0	451,000	0	山本 実男
〃	農道舗装修繕	大 谷	〃	L= 110.7m A= 315㎡	700,000	0	700,000	0	田村 守

11	農道舗装修繕	赤土・木地	美川村	L= W=	21.1m 3.5m	306,000	0	306,000	0	西山 公彦
〃	〃	本組下	〃	L= A=	10.6m 122㎡	224,000	0	224,000	0	田村 守
〃	管水路空気弁柵修繕	古味	〃	N=	1	63,000	0	0	63,000	藤本 幹翁
〃	農面農道法面整備	日野浦	〃	L=	10.0m	199,500	0	199,500	0	平柳 安得
12	農道舗装修繕	大川	〃	L= W=	15.0m 4.0m	157,500	0	157,500	0	西山 周
〃	小農道舗装	大川上組	〃	L= W=	366.9m 1.2m	1,950,000	0	1,794,000	156,000	高山 猛
〃	農道修繕	箕川	〃	L= W=	5.0m 3.5m	231,000	0	231,000	0	高岡 春彦
〃	農道舗装修繕	高山・仕出	〃	L= L= W= W=	14.0m 34.0m 3.5m 5.0m	462,000	0	462,000	0	東 誠
〃	〃	東谷	〃	L= W=	61.5m 3.5m	504,000	0	504,000	0	西山 周
13	小農道舗装	大川下中	〃	L= W=	54.0m 2.0m	450,000	0	414,000	36,000	平柳 安得
〃	水路嵩上工設置	馬門	〃	L=	3.0m	58,000	0	58,000	0	〃
〃	止水壁設置	本組西	〃	L=	13.5m	114,000	0	114,000	0	〃

13	農道側溝改修	釣 井	美川村	L= 10.0m	105,000	0	105,000	0	天野 萬久
〃	ガードレール設置	イノヤシキ・共省	〃	L= 45.0m	385,000	0	378,000	7,000	高岡 春彦
〃	農道舗装修繕	仕出・堤・藤社中	〃	L= 141.8m A= 319㎡	885,000	0	885,000	0	西山 周
14	排水路整備	田 の 元	〃	L= 28.7m	380,000	0	350,000	30,000	平柳 安得
〃	小農道舗装	本 組 西	〃	L= 90.0m W= 1.2m~1.8m	550,000	0	506,000	44,000	〃
〃	農道舗装	三 次	〃	L= 74.1m W= 3.5m	840,000	0	815,000	25,000	西山 周
〃	農道修繕	沢 渡 線 他	〃	L= 115.6m	601,000	0	601,000	0	東 誠
	合 計				24,621,750	0	22,570,750	2,051,000	

第五節 特産品開発

一 美川ふるさと市

いまや、美川の年中行事として定着した、美川ふるさと市。その歴史は、昭和六三年度に遡る。

当時、村の活性化を目的とし、県の補助・村の助成を受け、スタートした美川ふるさと市は、農村環境改善センター前の駐車場を利用し、夏から秋までの間、四〜七回程度の開設を行っていた。

平成三年度には、より売上を増やす事を目的とし、交通量の多い国道沿いに会場の変更を行い、地道に運営を続けてきた。

その後、加工施設の建設を望む声が強くなり、平成四年には、専用の加工室を備えた農村活性センターみかわが完成した。それに合わせて、移動屋台・販売台等を整備し、ふるさと市の充実に努めた結果、開設日が倍以上に増え、安定した顧客もつき始め、より地域に定着した。

そして、平成一四年度には、県の補助を受け、総工事費一、一六六万円を投じ、ふるさと市販売施設が完成した。販売施設が完成したことにより、毎日、ふるさと市を開催したので、ぜひ施設を使わせて欲しい、といった要望があり、一五年七月からは、ほぼ毎日の開催となった。

現在では、開設日が増えた事により、村内各地の農家の方々より喜びの声が上がっている。さらに、地域の素材を活かした新商品の開発も行われており、近い将来、新たな特産品が出来るのではないかと、との期待も寄せられている。

ふるさと市年度別売上集計表

(単位：円)

平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
2,917,210	2,262,950	1,831,950	2,437,300	2,617,890	2,761,750



美川ふるさと市

二 農村活性センターみかわ

平成四年八月にオープンした、農村活性センターみかわは、当時から、農業と農村の活性化を図る為の拠点施設として、村民に親しまれて来た。

国道沿いの、立ち寄りやすい場所にあるこの施設には、毎日多くの観光客が訪れ、賑わいが絶えない。訪れる人々は、入口横の巨大水車に心を和ませ、一步中に入れば、巨大な三本杉に感動を覚える。奥にある食堂では、アユ・ウナギ・アマゴ等を使った、新鮮な川魚料理を提供しており、食事をすることを目的とした観光客も多い。

また、加工室は、ふるさと市を中心として、地域の農産物を加工し、付加価値のついた特産品づくりの場所として、活用されている。なお、この施設の管理・運営については、松山市農協・森林組合・商工会・村の出資により設立された、株式会社みかわがあたっている。

平成四年の設立以降、活性センターは、業績を伸ばし続けている。一度訪れた事で、良い印象を持ち、リピーターとなる方も後を絶たない。

平成一三年八月一日に、施設の周囲一帯が、道の駅として認定されたことにより、周辺整備が進み、客足はさらに伸びた。平成一四年一月末には、総工事費二、三〇〇万円を投じ、地下に和室が作られ、建物自体の整備も進んだ。

村民・村外者問わず、親しまれている農村活性センターみかわは、今後も地域の中心として、重要な役割を担い続けていくであろう。



活性センター
食堂



活性センター
売店

農村活性センターみかわ年度別売上表（設立以来）

（単位：円）

	平成 4年度	平成 5年度	平成 6年度	平成 7年度	平成 8年度	平成 9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
売店	6,688,466	10,830,551	14,367,735	15,980,233	19,463,559	20,655,308	20,746,904	20,502,610	19,916,060	23,636,391	30,634,021
食堂	8,482,045	14,339,847	14,278,408	15,607,970	15,978,915	16,393,142	18,400,411	22,563,678	18,370,796	20,758,210	23,563,446

第六節 第三セクター

一 株式会社みかわ

平成四年六月に、村・農協・森林組合・商工会の四団体の出資により、資本金一、五〇〇万円で、第三セクターの、株式会社みかわが設立された。

会社設立の当面の目的は、同年八月オープンした、農村活性センターみかわの、管理運営業務が主なものであった。

しかし、近い将来、今以上の高齢化・過疎化が進行し、担い手不足が予想される為、平成五年四月から、村内の砂利道の維持補修事業を村から受託した。

平成五年中に、様々な研究を重ね、条件整備をしたうえで、平成六年四月からは、し尿・ごみ収集業務、白銀荘管理運営業務、学校給食調理、運搬業務を、新たな業務として、村から会社に受託し、それまで、村の臨時的雇用であった職員を、一斉に会社に採用し、身分の安定、労働条件の改善を図った。

現在においては(一)農村活性センターみかわ管理業務(二)農林道維持補修業務(三)し尿・ごみ収集業務(四)給食調理運搬業務(五)寄宿舎管理業務(六)道の駅みかわ管理業務(七)ごみ小運搬水道管理業務(八)スキー場管理業務等、多岐に渡る業務を行っている。

住民ニーズが多様化する現代において、住民サービスを陰で支える株式会社みかわは、美川村にとって、なくてはならない存在であろう。



衛生業務職員



道路維持補修業務職員



農村活性センターみかわ職員



(株)みかわ管理業務職員



若竹寮寮母業務職員



給食センター職員

第七節 農業協同組合

一 松山市農業協同組合となつて

昭和四六年七月、久万農協・美川村農協・面河村農協・柳谷村農協の四農協の合併により、久万農協が誕生した。その後、組合員の高齢化が進み、農協経営においても、強化拡充が叫ばれ、県下農協の広域合併が進む中、久万農協においては、平成一一年二月、旧松山市農協と、川内町川上農協の三農協の合併において、新生松山市農協が誕生し、組合員数二万一、〇〇〇名を有する大規模農協となった。本村には、旧久万農協を引き継ぎ、仕七川地区に美川支所（組合員数三四七名）、旧弘形、黒藤川、沢渡地区を管轄する御三戸支所（組合員数四六八名）の二つの事業所がおかれ、引き続き事業運営に当たっている。御三戸支所においては、旧事務所が老朽化していたため、合併を機に「ドライブインみみど」跡を購入し、事務所に改装。平成一一年五月より、新店舗に移り営業を開始した。又、新店舗移転に合わせ、地区組合員の燃料供給基地として、同年八月に、同敷地に給油所が新設された。

美川支所事務所は、平成二年一一月に、Aコープ店舗を併設したモダンな事務所として完成した。旧Aコープ美川店は、合併に伴い松山生協美川店となり、生鮮食品の購買で地域住民に親しまれている。平成四年に完成した、農産物加工施設においては、美川の伝統ある味噌・醤油の生産販売が行われている。

その他の施設として、美川茶工場及び野菜集出荷場があり、美川村特産品の生産・集出荷の拠点となっている。



事務所・店舗・給油施設
平成11年末オープン



野菜集出荷場
昭和55年3月完成



支所事務所・Aコープ店
平成2年11月完成



醸造加工施設
平成4年3月完成



茶業センター
平成15年3月竣工

二 組織

松山市農業協同組合には、事業の円滑な進行と運営体制確立の為、農協運営協力組織として、総代会・運営委員会・協力委員会・共済相談委員会・農機相談委員会などがある。

又、青壮年部・女性部・共済億友会・年金友の会・資産管理友の会などの組織が、協力して組織運営にあたっている。

又、営農組織として、久万支局管内では、久万米生産部会・トマト部会・キャベツ部会・ミニトマト部会・菌床シイタケ部会・大根部会・茶部会・畜産部会・ピーマン部会を結成し、各部会員の生産力の向上、農政運動、生産活動の拠点として、多数の会員が加入し、活発な活動が続けられている。

三 事業

都市型農協と、山間地農協との合併の為、事業展開にも難しさを感じるが、久万支局管内及び美川村内での事業の経過は、次の通りである。

(一) 金融事業

長期にわたる低金利、ペイオフをはじめとする金融情勢は、激しく変化しているが、山間部における最寄りの金融機関として、年金受取・公共料金の自動振替等、多くの住民がJA貯金を利用している。

又、融資事業においては、生産資金・営農資金の必要な組合員が、各種ローン・農業制度資金等を利用している。

(二) 共済事業

共済事業は、相互扶助「助け合い」を基本理念とした、協同組合の保険であり、組合員の生活を守る「ひと」「いえ」「くるま」すべてに、

幅広い保障をするものである。

組合の共済組織は、共済友の会員を中心として、大口加入者対象の「億友会」がある。会員相互で健康を祝い、親睦を図り、つながりを深め、新しい会員の加入促進をしている。

共済の種類も保障内容も多様化し、加入者ニーズに合った商品が増えてきた。特に、生命・財産保障は勿論、病氣等入院医療保障・ガン共済等を取扱うようになった。

さらに、車社会に対応した、万一の自動車事故への自動車共済、地震・台風から守る建物更生共済、公的年金の不安から、豊かな生活を送れる年金共済、子供の教育資金への準備をする、こども共済等、幅広い、そして内容も豊富なJAの共済となり、組合員の生活基盤作りに役立つている。

美川村では、戸当保障額は、平成一四年度において、四、五〇〇万円となり、大切な生命・財産保障額となっている。

特に、今年、共済が生まれて五〇周年となり、節目の年である。

(三) 購買事業

松山市農協は、購買事業の取りまとめとして、本所に資材部をおき、多様化する消費者ニーズに対応している。その中で、久万支局管内では、久万支局資材課を中心とし、明神・久万・父二峰・畑野川・直瀬支所を管轄とする、久万経済センターと、御三戸・美川・面河・柳谷支所を管轄とする、御三戸経済センターに分かれ、予約購買の配送センターとしての業務を行っている。

近年、組合員の高齢化による、耕作面積の減少、および、減農薬、減肥料による、安全な農作物の生産の為、農薬、肥料の売上げは、減少の途をたどっている。

その他、一般生活購買事業においても、景気の低迷による、購買意欲の冷えこみ、又、大型店の出店もあり、売上げは徐々に減少傾向をたどっている。

昭和四九年一二月、久万にオープンした、Aコープ本店、現在合併により、松山生協久万店に名称が変わったが、久万店を基店として、畑野川店・日野元店・直瀬店・美川店の五店舗で、生鮮食品を中心に、生活に密着した店舗として、地域住民に好評を得ている。

燃料事業は、美川村内では、美川支所・御三戸支所に給油所があり、地域組合員の燃料供給基地としての役割を果たしている。

今後の購買事業においては、予約購買を中心とした、販売拡大に努力し、高齢化が進む中での購買事業について、検討が必要であり、購買事業の刷新が迫られている。

(四) 販売事業

美川村における農産物の販売は、四八年度には、米・茶・養蚕を主体に、販売金額一億五、二〇〇万円であった。その後、トマト・キャベツ・レタス・菌茸・ホウレン草等が導入された。

五四年度に、御三戸支所へ野菜集荷場が建設され、また、生産販売関連施設も、久万町菅生団地へ、野菜集荷場・米穀低温貯蔵庫・トマト選果場・ピーマン選果場・野菜低温貯蔵施設等が、国・県はもとより、地元町村の助成の元で順次整備された。

また、葉タバコの廃作に伴い、ピーマン栽培が大々的に取り組まれ、平成五年度のピーマンが、一億六、〇八〇万円の売り上げとなり、同年の美川村全体の販売金額は、二億六、七三三万円の売り上げと、大幅な伸びを見ることが出来た。

平成一四年度の美川村の販売金額は、一億七、八四〇万円であった。

(五) 製造事業

製造事業は、味噌・醤油の一貫生産販売を行っており、特に醤油は、農協の合併に伴い、松山生協の各店舗へ出荷販売しており、また、組合員の家族を通しては、遠くは関東方面まで送られている。

また、麴に塩を加えただけの状態で販売をしている味噌麴は、消費者が、自分で手を加えながら味噌に出来ることから、県内・県外への

出荷販売をしている。

これからも、味噌・醤油共に、販路拡大・販売高の増加に努めていきたい。

(六) 茶葉事業

茶葉は、面河村・美川村・柳谷村で、それぞれ生産出荷される生葉を、七鳥工場と面河工場で加工し販売してきたが、平成一四年度、新山村振興等農林漁業特別対策事業により、国・三村より補助を受け、七鳥工場の製茶機械を整備し、品質の良い荒茶を、効率良く、一工場に製造することができるようになった。それに伴い、小売販売を強化するため、七鳥工場内にあった茶業センターを、松山市高井町に移し、松山生協・各Aコープ店舗、及び三越・伊予鉄高島屋等へ出荷販売している。

茶の生産は、近年、晩霜被害を受ける事が多くなり、生産量・品質共に低下するため、平成一五年度、二一世紀型農業産地育成事業により、県・美川村・柳谷村より補助を受け、防霜ファンを導入することとなった。生産農家の高齢化や、中国茶の輸入等により、生葉単価も下がり、生産量が減少してきているが、柳谷村・美川村・面河村の特産品として、品質の高い久万茶の生産・販売に努めている。

茶の作付面積及び生産量の推移（S50～H15）
（農協取り扱い分）

	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成 2年	平成 7年	平成12年	平成15年 (参考)
作付け面積	35ha	35ha	35ha	20ha	24ha	23ha	23ha
生産量	140 t	168 t	90 t	67 t	54 t	41 t	75 t
10a当たり 収 量	400kg	480kg	257kg	335kg	225kg	178kg	326kg

(七) 利用事業

利用事業は、水稲・野菜の育苗及び供給、米の乾燥調整及び貯蔵、野菜の集出荷等の事業である。

水稲の機械植え用の苗供給を行うため、四九年七月に、久万町に、育苗センターが設立された。続いて、ライスセンター・野菜の集荷場・農産物の貯蔵施設・トマト選果場・野菜低温貯蔵施設・野菜育苗施設・ピーマン選果場等が次々と整備され、苗の安定供給・米の乾燥調整・農産物の集出荷等の施設利用を行っている。

また、野菜苗では、平成五年度に導入設置した、播種機と発芽育苗施設により、健全苗を農家へ供給している。

これらの施設に関しては、国・県はもとより、地元四か町村より助成をうけ、松山市農協久万支局管内の営農振興の拠点となっている。

(八) その他の事業

その他の事業として、昭和五〇年に、冠婚葬祭事業が開始された。以来、多くの利用者があったが、現在冠婚葬祭においては、若者の定住が減少すると共に出生率も低下し、それに伴って利用者の減少も有り、申し込みがあつた場合は、リジエール松山へ委託している。

葬祭事業は、近年になり、自宅葬の減少により、会館葬が望まれる中、農協においても、本年三月に、旧大宝会館を取得し、同年八月に「やすらぎ会館」をリニューアルオープンさせた。それにより、組合員の希望に添うよう、低価格・サービス向上を目指し、満足して頂ける葬祭事業となるよう事業を行っている。

四 部門別営農活動（指導事業）

(一) 水 稲

水稲は、田植機やコンバイン等の導入により、機械化が進んでいるが、生産調整の実施で、作付面積が減少している。

農協苗は、久万町直瀬にある久万育苗にて、播種発芽した苗を、美川村有枝の育苗ハウスに持ち帰り、硬化・緑化を経て、各農家へ供給される。

五三年には、第二次水田利用再編対策が実施され、転作面積も、全国で一二パーセントに達し、農家の米作意欲が減退していった。

現在の久万高原支所内に、農業振興流通開発室を設置し、激変する農業情勢への対策を講じていった。

五七年には、食管法が改正され、自主流通米の増大と、市場性の導入に伴い「うまい米」の銘柄確立と、早期米の産地化を図るべく対策を講じた。五九年には、水編対策第三期事業として、他用米制度が導入となり、他用途米の集荷をせざるを得なくなった。平成七年に施行された「新食糧法」による流通規制緩和で、混乱している中、農家・行政・農協が一体となり、「久万高原清流米」として、減農薬・減化学肥料栽培、産地の顔が見える、売れる米作りとした、新しい取り組みを始めた。防除協議会の設立による一斉防除体制、ライスセンター整備、低温貯蔵施設利用、消費者交流会等により、生産販売流通の強化を行った。

(二) タバコ

タバコ栽培は、一時期、収益が安定しており、優良作物の一つであった。以前は、収穫期が九月までかかる品種であったため、台風被害を受け、収穫が満足に出来なかったが、その後、品種改良により、八月中旬までに短縮され、収穫量が増大した。

五〇年代には、美川村において、四〇名前後の生産者で、一億円前後の収益をあげていた。しかし、愛煙家の減少と、禁煙運動の激化に合わせて、減反奨励が行われ、専売公社の民営化と相まって、価格の低迷する中で、離作農家が続出した。六〇年代に入り、販売額は極端に減少し、現在では生産がなくなった。

(三) 養 蚕

四〇年代後半ころには、二〇〇戸を上回る養蚕農家があった。しかし、化繊の出現と、洋裁への転化の中で、価格も低迷傾向を続け、合わせて、高齢化の中で、年々減少し、桑園の多くは植林化され、現在では生産がなくなった。

(四) 畜 産

畜産農家は、高齢化や牛肉の自由化による価格低迷、また、平成一三年度、狂牛病(BSE)の発生により子牛価格・枝肉価格の低下により、激減してきている。

繁殖農家は、夏山冬里方式により、大川峰牧場・姫鶴牧場を利用し、効率のよい繁殖経営ができ、子牛の販売は、平成七年度より、東宇和郡野村町で、二ヶ月ごとに開催される臨時家畜市場で、県下一市場での販売を実施している。

牛肉の安全性に対する信頼確保を図るため、一五年二月一日より、牛肉のトレーサビリティ法が施行され、出生から精肉販売まで、個体管理される中、上質肉の安定生産を目標に努めている。

(五) キャベツ

キャベツは、美川村においては、五五年ごろから、本格的に出荷され始めた。

特に、二籠地区のキャベツは、高品質(色が良い)ということと、高知市場において好評を博し、夏秋キャベツとして出荷された。生産拠点として、平成四年度事業で野菜集出荷場が建設された。

五七年二月に、国の指定産地を受け増産されてきたが、平成元年から減少傾向にある。

美川村においては、村単事業で、べた掛け資材補助の実施など、増産に期待がかかっていた。しかし、生産者の高齢化、販売価格の低迷や重量野菜であるため、廃作者が続き、現在では生産がない。

(六) トマト

⑧ 久万高原トマトは、京阪神市場にて、確固たる地位を築いている。美川村においては、四八年には二名、五五年には五名、平成五年には三名、現在では、村単事業（夏秋野菜産地育成事業等）による産地振興で、規模拡大や新規就農等の促進により、八名にて栽培に取り組んでいる。

⑨ 久万高原トマトは、稲作転換作物として、四五年から、組織的に販売用として栽培を開始し、四六年に部会が発足した。美川地区でも、栽培が開始された四八年には、高品質なトマトとして、京阪神市場で、一位にランク付けされた。

五三年六月には、国の指定産地となった。五五年より、本格的な雨よけハウス栽培、五六年度事業による、大型共同選果機械の導入等、面積拡大や出荷規格統一が図られたため、販売金額も年々伸長がみられ、平成三年度には一〇億円を突破した。平成一二年度事業による、自動色別形状選別選果施設の建設により、安定した高品質のトマト生産が図られている。

(七) ピーマン

⑩ 久万高原ピーマンは、西日本有数の確固たる地位を築いている。美川村においては、高齢化・婦女子化による重量野菜から、軽量野菜への転化の中、タバコからの転作作物として導入され、現在では、村単事業による産地振興にて、栽培拡大により、二六名が取り組んでいる。

⑪ 久万高原ピーマンは、昭和五八年ころより、作付面積が拡大され、昭和六一年に部会が発足した。また同年、大型共同選果機が導入され、従来の手詰め作業が解消され、選果の統一と栽培面積拡大により、⑫ 久万高原ピーマンの名声が高まる。平成二年八月に国の指定産地となった。また、平成三年には、重量選別機の増設、美川村銘柄産地事業での、雨除施設の導入等により、高単価もあり、販売高二億円を突破した。

美川村では、平成五年より、村単事業の施設農業補助事業等による、新規栽培者の増加も見られた。また、同年販売価格の高騰により、美川村における販売金額で、一億六、〇〇〇万円を達成し、一億円突破記念大会を行った。

トマト・ピーマン収量及び販売高推移（H5～H14）

（単位：t、千円）

作物		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
トマト	収量	32.2	41.9	50.5	95.3	82.6	74.4	78.3	105.6	123.7	147.0
	金額	13,971	16,973	18,291	8,396	31,931	26,027	31,489	37,161	42,379	56,796
ピーマン	収量	232.0	338.3	323.1	296.5	264.0	12.0	256.5	280.1	41.2	252.6
	金額	160,801	121,766	89,339	113,222	82,039	87,688	87,104	80,295	68,666	86,431

(八) 菌 茸

生しいたけの生産は、平成に入り、菌床栽培が主流となった。美川村においても、平成三年度より、独自にブロック製造が行える施設を備え、ピーク時には、年間約一七万パックの出荷量となった。

しかし、ここ数年、中国産の輸入量増加、また、品質的にも国産品に近づいた事により、市場単価は年々下がる状況にある。そのような中、生産者も、安定した他品目経営への転換を図り、現在では、一名の農家での生産となっている。

(九) その他

花 き 平成四年度から、トルコギキョウを中心に、産地化を目指したが、優良品種の開発により、当地（中山間）の有利性を生かした栽培体系が、経営的に困難となった。また、他品目への転換も模索しているが、現在のところ厳しい状況である。

みつまた 古くから、美川村の特産品として栽培されてきたが、高齢化等により、耕作者は減少している。加えて、現在のカード社会等による、日本銀行券の発行枚数激減、原料としても、他の原料に変わり、ごくわずしか使用されない現状にある。民間需要もほとんどなく、供給可能性に対し、需要が大きく下回っている。

五 今後の動向

都市と農村の生活・生産の共生を目的に、松山市農協、川内町・川上農協と久万農協が、平成一一年二月に、広域合併をした。

愛媛県や各関係市町村の支援と協力により、農業振興に取り組み、施設の充実等、農業基盤の強化を図り、地域の経済・金融団体として活動を続けている。

農産物の産地間競争に加えて、農産物に対する安心・安全を求められ、併せて、組合員の高齢化、農業後継者不足による、農地の荒廃等

が深刻化される。また経済・金融事業も、規制緩和による自由化等によって、農協経営も、資本の充実と経営体質強化が求められている。今後の農業・農協を取り巻く情勢は、政治・経済・国際化等の、急激な変化への対応をせまられるが、広域合併の利点を生かし、地産地消に取り組み等、地域住民との共生と、地域農業の振興を図るため、今後ますます、行政と農協が連携を取り合って、基盤の確立に努めていく必要がある。

市町村別 組合員数

	正組合員	准組合員	合計
松山市	6,252名	6,212名	12,464名
松前町	1,902名	801名	2,703名
川内町	2,144名	738名	2,882名
久万町	1,427名	370名	1,797名
面河村	189名	174名	363名
美川村	510名	305名	815名
柳谷村	305名	145名	450名
合計	12,729名	8,745名	21,474名

第三章 林業

第一節 林業の概要

一 山林所有の概況

本村の総土地面積は、一三、四三八ヘクタールであり、そのうち、林野面積は一二、一二〇ヘクタールで、また、林野面積のうち、森林面積は一、九六九ヘクタールとなっている。総土地面積の約八八・八パーセントを森林で占めている。

森林面積の内訳を見ると、国有林面積は、一、〇一七ヘクタール、民有林面積は、私有林九、七五二ヘクタール、県・村有林八四八ヘクタール、緑資源公団三八八ヘクタールとなっている。

民有林の森林の構成を見ると、立木地面積一〇、五九八ヘクタール、竹林三五ヘクタール、無立木地等三四五ヘクタールとなっている。立木地面積を齢級別に見ると、人工林では、八〇九齢級の面積が四、八一九ヘクタールと、約五〇パーセントが、全体の半分を占めている。

このことは、近年の木材価格の長期低迷、後継者不足、高齢化といった、さまざまな問題のため、近年、間伐、皆伐がほとんどなくなつたため、若齢級が減り、本村の森林の高齢級化が進み、成熟期を迎えようとしていることを示している。

美川村内の林種別では、人工林が約九、四九四ヘクタール、天然林が約一、一〇三ヘクタール、その他約三、七九ヘクタールとなっている。また、樹種別で見ると、スギが約七、五二〇ヘクタール、ヒノキが約

一、九五三ヘクタール、広葉樹が約九、九九ヘクタール、その他五一四ヘクタールとなり、スギの占める割合が全体の約七割である。

森林資源構成表

中予山岳計画区 久万農林事務所 美川村

単位 面積：ha、蓄積：m³ ページ：383-1

区分		総数			齡級1			齡級2			齡級3			齡級4			齡級5				
		面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量		
立木	総数	総数	10,597.61	2,852,997	56,972	18.71	0	0	44.83	33	10	49.75	2,657	381	94.80	8,178	675	249.25	33,484	1,911	
		針	9,516.84	2,743,616	55,858	18.06	0	0	41.80	0	0	46.98	2,560	373	71.27	7,059	626	221.86	31,887	1,854	
		広	1,080.77	109,381	1,114	0.65	0	0	3.03	33	10	2.77	97	8	23.53	1,119	49	27.39	1,597	57	
	人工林	総数	総数	9,494.13	2,732,283	55,660	18.45	0	0	44.83	33	10	49.52	2,649	380	80.24	7,486	642	224.23	32,024	1,857
			針	9,474.37	2,731,429	55,623	17.80	0	0	41.80	0	0	46.98	2,560	373	71.27	7,059	626	221.86	31,887	1,854
			広	19.76	854	37	0.65	0	0	3.03	33	10	2.54	89	7	8.97	427	16	2.37	137	3
		育成単層林	総数	9,480.87	2,729,329	55,595	17.06	0	0	44.68	33	10	48.01	2,560	368	80.24	7,486	642	223.27	31,904	1,850
			針	9,461.11	2,728,475	55,558	16.41	0	0	41.65	0	0	45.47	2,471	361	71.27	7,059	626	220.90	31,767	1,847
			広	19.76	854	37	0.65	0	0	3.03	33	10	2.54	89	7	8.97	427	16	2.37	137	3
		育成複層林	総数	13.26	2,954	65	1.39	0	0	0.15	0	0	1.51	89	12	0.00	0	0	0.96	120	7
			針	13.26	2,954	65	1.39	0	0	0.15	0	0	1.51	89	12	0.00	0	0	0.96	120	7
			広	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
	天然林	総数	総数	1,103.48	120,714	1,312	0.26	0	0	0.00	0	0	0.23	8	1	14.56	692	33	25.02	1,460	54
			針	42.47	12,187	235	0.26	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			広	1,061.01	108,527	1,077	0.00	0	0	0.00	0	0	0.23	8	1	14.56	692	33	25.02	1,460	54
		育成単層林	総数	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			針	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			広	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		育成複層林	総数	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			針	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			広	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
天然生林		総数	1,103.48	120,714	1,312	0.26	0	0	0.00	0	0	0.23	8	1	14.56	692	33	25.02	1,460	54	
		針	42.47	12,187	235	0.26	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	
		広	1,061.01	108,527	1,077	0.00	0	0	0.00	0	0	0.23	8	1	14.56	692	33	25.02	1,460	54	
竹	林	34.82	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0		
伐採跡地	7.73	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0			
未立木地	331.86	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0			
更新困難地	4.93	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0			

森林資源構成表

中予山岳計画区 久万農林事務所 美川村

単位 面積：ha、蓄積：m³ ページ：383-2

区分		齡級6			齡級7			齡級8			齡級9			齡級10			齡級11				
		面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量		
立木	總数	總数	645.87	114,305	4,465	1,326.09	302,938	9,002	2,558.38	676,440	15,566	2,723.28	795,173	14,155	1,398.99	452,104	6,621	690.60	209,542	2,470	
		針	578.50	109,574	4,343	1,273.90	298,479	8,922	2,364.97	658,391	15,298	2,473.13	769,883	13,881	1,303.87	441,573	6,535	540.65	192,874	2,370	
		広	67.37	4,731	122	52.19	4,459	80	193.41	18,049	268	250.15	25,290	274	95.12	10,531	86	149.95	16,668	100	
	人工林	總数	總数	578.79	109,445	4,334	1,270.25	297,731	8,894	2,360.68	657,314	15,269	2,458.50	765,598	13,794	1,294.26	438,723	6,487	534.72	190,830	2,341
			針	577.13	109,330	4,333	1,270.10	297,719	8,894	2,360.60	657,306	15,269	2,458.29	765,577	13,794	1,294.26	438,723	6,487	534.72	190,830	2,341
			広	1.66	115	1	0.15	12	0	0.08	8	0	0.21	21	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		育成単層林	總数	578.51	109,394	4,332	1,270.19	297,713	8,894	2,360.53	657,273	15,268	2,451.81	763,750	13,759	1,293.23	438,307	6,482	534.45	190,740	2,340
			針	576.85	109,279	4,331	1,270.04	297,701	8,894	2,360.45	657,265	15,268	2,451.60	763,729	13,759	1,293.23	438,307	6,482	534.45	190,740	2,340
			広	1.66	115	1	0.15	12	0	0.08	8	0	0.21	21	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		育成複層林	總数	0.28	51	2	0.06	18	0	0.15	41	1	6.69	1,848	35	1.03	416	5	0.27	90	1
			針	0.28	51	2	0.06	18	0	0.15	41	1	6.69	1,848	35	1.03	416	5	0.27	90	1
			広	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
	地	總数	總数	67.08	4,860	131	55.84	5,207	108	197.70	19,126	297	264.78	29,575	361	104.73	13,381	134	155.88	18,712	129
			針	1.37	244	10	3.80	760	28	4.37	1,085	29	14.84	4,306	87	9.61	2,850	48	5.93	2,044	29
			広	65.71	4,616	121	52.04	4,447	80	193.33	18,041	268	249.94	25,269	274	95.12	10,531	86	149.95	16,668	100
		育成単層林	總数	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			針	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			広	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		育成複層林	總数	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			針	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			広	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
天然生林		總数	67.08	4,860	131	55.84	5,207	108	197.70	19,126	297	264.78	29,575	361	104.73	13,381	134	155.88	18,712	129	
		針	1.37	244	10	3.80	760	28	4.37	1,085	29	14.84	4,306	87	9.61	2,850	48	5.93	2,044	29	
		広	65.71	4,616	121	52.04	4,447	80	193.33	18,041	268	249.94	25,269	274	95.12	10,531	86	149.95	16,668	100	
竹	林	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0		
伐採跡地	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0		
未立木地	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0		
更新困難地	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0		

森林資源構成表

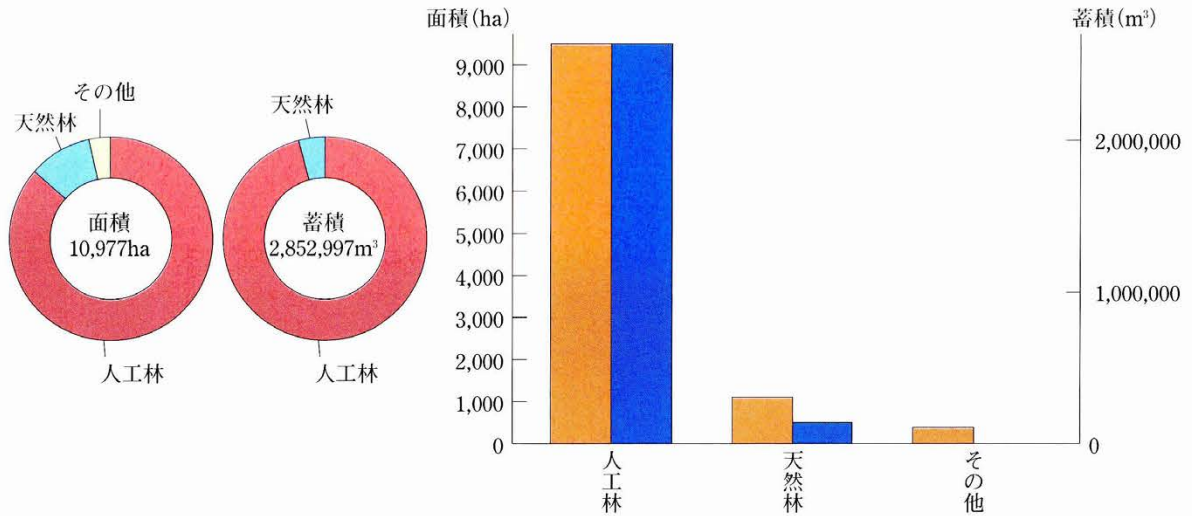
中予山岳計画区 久万農林事務所 美川村

単位 面積：ha、蓄積：m³ ページ：383-3

区分		齡級12			齡級13			齡級14			齡級15			齡級16			齡級17				
		面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量		
立木	総数	総数	256.01	80,398	798	229.96	74,003	588	70.95	24,245	168	240.14	79,497	162	0.00	0	0	0.00	0	0	
		針	197.66	73,392	766	163.03	65,832	568	53.98	22,045	164	167.18	70,067	158	0.00	0	0	0.00	0	0	
		広	58.35	7,006	32	66.93	8,171	20	16.97	2,200	4	72.96	9,430	4	0.00	0	0	0.00	0	0	
	人工林	総数	総数	197.66	73,392	766	162.56	65,675	567	53.10	21,681	161	166.34	69,702	158	0.00	0	0	0.00	0	0
			針	197.66	73,392	766	162.56	65,675	567	53.10	21,681	161	166.24	69,690	158	0.00	0	0	0.00	0	0
			広	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.10	12	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		育成単層林	総数	197.61	73,375	766	161.95	65,459	565	53.10	21,681	161	166.23	69,654	158	0.00	0	0	0.00	0	0
			針	197.61	73,375	766	161.95	65,459	565	53.10	21,681	161	166.13	69,642	158	0.00	0	0	0.00	0	0
			広	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.10	12	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		育成複層林	総数	0.05	17	0	0.61	216	2	0.00	0	0	0.11	48	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			針	0.05	17	0	0.61	216	2	0.00	0	0	0.11	48	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			広	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
	天然林	総数	総数	58.35	7,006	32	67.40	8,328	21	17.85	2,564	7	73.80	9,795	4	0.00	0	0	0.00	0	0
			針	0.00	0	0	0.47	157	1	0.88	364	3	0.94	377	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			広	58.35	7,006	32	66.93	8,171	20	16.97	2,200	4	72.86	9,418	4	0.00	0	0	0.00	0	0
		育成単層林	総数	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			針	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			広	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		育成複層林	総数	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			針	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
			広	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
	天然生林	総数	58.35	7,006	32	67.40	8,328	21	17.85	2,564	7	73.80	9,795	4	0.00	0	0	0.00	0	0	
		針	0.00	0	0	0.47	157	1	0.88	364	3	0.94	377	0	0.00	0	0	0.00	0	0	
		広	58.35	7,006	32	66.93	8,171	20	16.97	2,200	4	72.86	9,418	4	0.00	0	0	0.00	0	0	
竹	林	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0		
伐採跡地		0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0		
未立木地		0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0		
更新困難地		0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0		

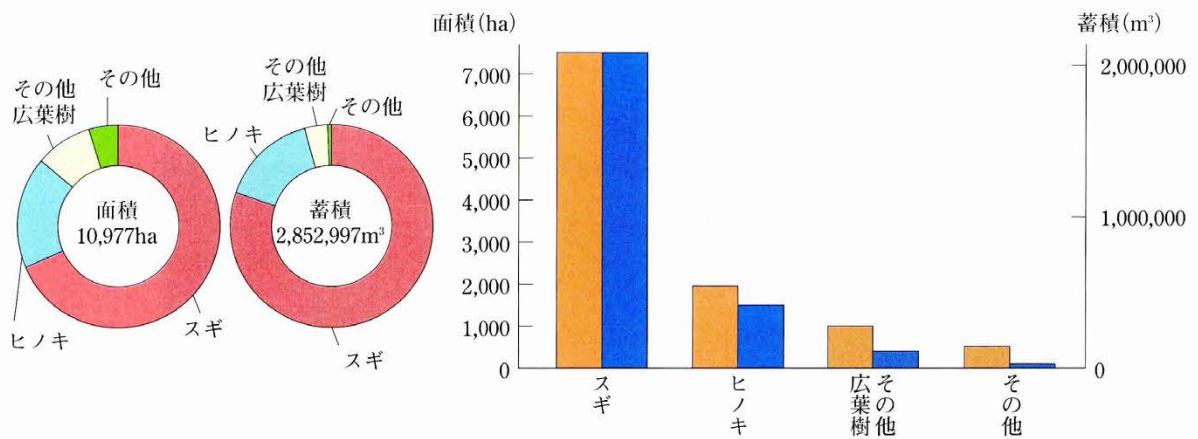
林種別

項目	面積(ha)	面積構成比	蓄積(m ³)	蓄積構成比	生長量(m ³)
人工林	9,494.13	86.49%	2,732,283	95.77%	55,660
天然林	1,103.48	10.05%	120,714	4.23%	1,312
その他	379.34	3.46%	0	0.00%	0
合計	10,976.95	100.00%	2,852,997	100.00%	56,972



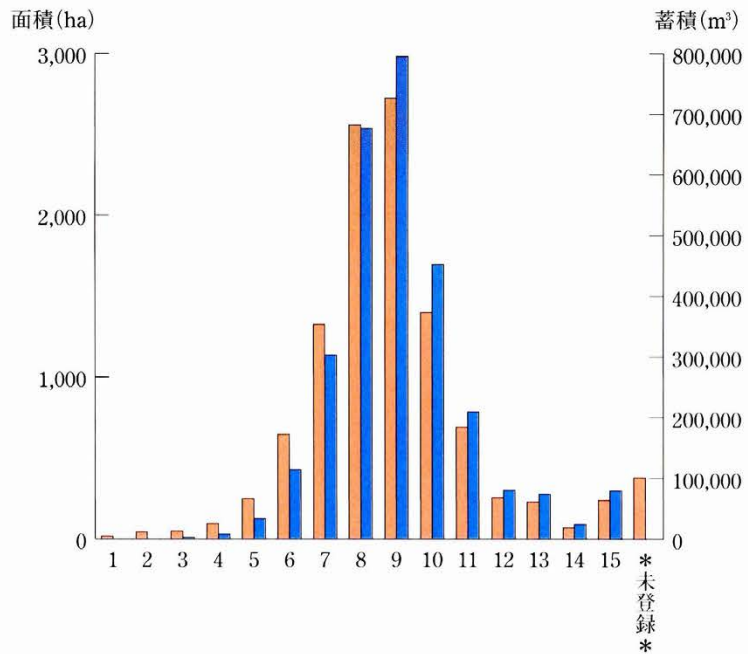
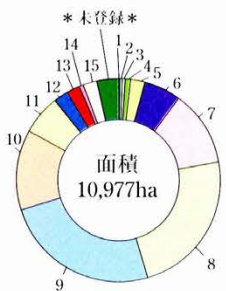
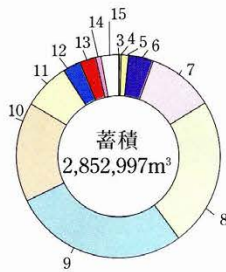
樹種別

項目	面積(ha)	面積構成比	蓄積(m ³)	蓄積構成比	生長量(m ³)
スギ	7,510.19	68.42%	2,292,440	80.35%	44,390
ヒノキ	1,953.76	17.80%	436,156	15.29%	11,181
その他広葉樹	998.88	9.10%	104,355	3.66%	985
その他	514.12	4.68%	20,046	0.70%	416
合計	10,976.95	100.00%	2,852,997	100.00%	56,972



齡級別

項目	面積 (ha)	面積構成比	蓄積 (m³)	蓄積構成比	生長量 (m³)
1	18.71	0.17%	0	0.00%	0
2	44.83	0.41%	33	0.00%	10
3	49.75	0.45%	2,657	0.09%	381
4	94.80	0.86%	8,178	0.29%	675
5	249.25	2.27%	33,484	1.17%	1,911
6	645.87	5.88%	114,305	4.01%	4,465
7	1,326.09	12.08%	302,938	10.62%	9,002
8	2,558.38	23.31%	676,440	23.71%	15,566
9	2,723.28	24.81%	795,173	27.87%	14,155
10	1,398.99	12.74%	452,104	15.85%	6,621
11	690.60	6.29%	209,542	7.34%	2,470
12	256.01	2.33%	80,398	2.82%	798
13	229.96	2.09%	74,003	2.59%	588
14	70.95	0.65%	24,245	0.85%	168
15	240.14	2.19%	79,497	2.79%	162
未登録	379.34	3.47%	0	0.00%	0
合計	10,976.95	100.00%	2,852,997	100.00%	56,972



二 流域林業活性化事業

一、今までの成果

中予山岳流域の上浮穴郡五ヶ町村は、森林資源の最大活用と、基幹産業である林業の振興を図るため（低コスト林業の実現）（林業担い手の確保）（木材流通加工基地整備）を基本構想の三本柱として、次のように一体的に整備してきたところである。

○（低コスト林業の実現）

共同施業団地を設定し、徹底した道路網整備と機械化による素材生産性の向上、及び労務の軽減化に努めている。

○（林業担い手の確保）

平成七年度には「株いぶき」に、五ヶ町村が共同出資し、その範囲を、郡内全域に広域化するとともに、その組織体制を拡充強化した。

○（木材流通加工基地整備）

充実してきている、スギ中目材の有効活用と、地域材の有効活用を図るため、平成八年度から、総事業費五一億円を投じて、大規模木材加工基地の施設整備を行い、平成一三年度に完了し、平成一四年度より、年間六万³m³の木材が、集材材を中心に製品化できる事となった。

一、活性化センターの果たす今後の役割

当地域は、林野率が九〇%、民有林が八六%となっており、このような立地及び自然条件の中で、当地域の活性化は、一二世紀における、環境の時代に対応して、森と木にこだわり、これを生かした、新たな林業の振興を図ることが、極めて重要である。

今後、このような事業展開を図るためには、現在取り組んでいる団地、林業担い手である久万広域森林組合（株いぶき等）や、一三年度に整

備された、大規模木材加工基地を、有機的に関連づけながら、一体的に推進することが必要である。

このため、平成一六年八月の町村合併に向けて、現在ある中予山岳流域林業活性化センターを、林業版合併準備対策室として位置づけ、団地化を推進する一方、その団地内において、基盤整備の推進、計画的な労務配置、計画施業の推進をはかるなど、その推進体制の担い手として、拡充強化することが必要不可欠である。

また、林業振興の車の両輪のもう一方である地域材需要拡大を図るため、当活性化センター内に（木材需要拡大対策室）を設置し、民間人の起用も視野に入れて、抜本的な拡大策を行うこととし、次のような事業に取り組むこととする。

（一）森林共同施業団地の推進

○団地森林の情報管理

計画的な施業の推進や労務配置、林地の流動化対策など、団地の各種施策を推進するための補完措置として、森林情報を管理する。

○計画施業の推進

各種補助事業の導入・斡旋により、一体的に計画的な施業の推進を行うほか、その支援体制を強化する。

○計画的な労務配置

計画的な施業の推進や、労務の効率化を図るため、労務配置計画の作成や、労務斡旋をおこなう。

○林地の流動化対策

経営放棄森林などを、やる気のある林家への林地の流動化により、森林の活性化と、木材の有効活用を図る。

○林地境界の確定

森林施業や基盤整備を推進するため、境界確定を推進する。

（一）林業担い手の養成確保

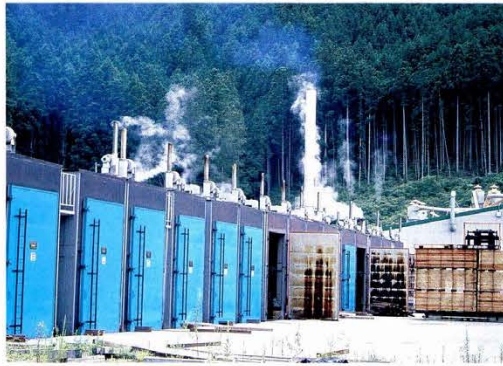
減少・高齢化している、林業担い手の養成確保対策を推進する。

- (二) 木材需要拡大の推進
団地化による計画施業の推進と、これにより生産された木材の、需要拡大策を推進する。
- (三) 木質バイオマス対策の推進
樹皮の処理対策と、バイオエネルギーの生産、利用、販売を促進する。

- (四) 森林認証の取得
自然に配慮した施行から、産出される木材のラベリング化による、木材製品の差別化により、地域材の需要拡大を図る。



大規模加工施設全景



製材品乾燥状況

第二節 森林組合

一 組合の歩み

林材業界は、長い不況から脱出し得ず、バブル崩壊後、益々厳しくなっている。

その中で、上浮穴の各森林組合は「組合員が共同して、その経済的、社会的地位の向上、並びに森林の保持培養及び森林生産力の増進を図ること」を目的とし、平成一〇年四月一日に広域合併し、それまでの美川村森林組合は、久万広域森林組合美川支所となった。

このような中で、村当局の林業に対する援助は、林道の開設、村単による林内作業路の開設費補助、美川村森林再生支援事業の、除間伐に対する補助等、林家ともども多大な恩恵に浴している。

また、仕出加工場（現美川事業所）には、モルダー施設を導入し、現在の需要にあった製品造りに努めている。

今後、地域の森林組合として、森林を守り育て、活力ある産地づくりを目指し、原木の安定供給と森林整備に努める。

美川村森林組合役員一覽表

																					平成四年二月二八日
		監事																			平成七年二月二七日
																					平成七年二月二八日
																					平成八年二月二七日
		監事																			平成八年二月二八日
																					平成一〇年二月二七日
																					平成一〇年二月二八日
																					平成一〇年三月二日
	向井純司	竹内賀男留	坂本国敏	竹本康寿	高木秀雄	高岡稔	小椋英一	西岡勇美	片岡正幸	高本茂	天野登	玉井春鬼	篠崎勇	片岡伝	大東義貞	伊藤忠興	村上清章				
	高本茂	高橋広衛	玉井春鬼	箱岡幸夫	坂本国敏	高木秀雄	高岡稔	団上宮雄	片岡正幸	栄代良比古	天野登	竹内賀男留	篠崎勇	山田寿雄	山下喬	栗下宗孝	村上清章				
	高本茂	玉井春鬼	箱岡幸夫	坂本国敏	高木秀雄	高岡稔	団上宮雄	片岡正幸	栄代良比古	天野登	竹内賀男留	篠崎勇	山田寿雄	山下喬	栗下宗孝	村上清章					
	小椋英一	高本茂	玉井春鬼	箱岡幸夫	坂本国敏	高木秀雄	高岡稔	団上宮雄	片岡正幸	栄代良比古	天野登	竹内賀男留	篠崎勇	山田寿雄	山下喬	栗下宗孝	村上清章				

久万広域森林組合美川支所選出役員一覽表

監事	高木秀雄	小椋英一	天野登	竹内賀男留	篠崎勇	栗下宗孝	村上清章	木下久敬	職名	平成一〇年四月一日
監事	高木秀雄	小椋英一	天野登	竹内賀男留	篠崎勇	栗下宗孝	村上清章	木下久敬	職名	平成一二年三月三十一日
監事	高木秀雄	小椋英一	天野登	竹内賀男留	篠崎勇	栗下宗孝	村上清章	木下久敬	職名	平成一二年四月一日
監事	高木秀雄	小椋英一	天野登	竹内賀男留	篠崎勇	栗下宗孝	村上清章	木下久敬	職名	平成一三年三月二十八日
監事	高木秀雄	小椋英一	天野登	竹内賀男留	篠崎勇	栗下宗孝	村上清章	木下久敬	職名	平成一三年三月二十九日
監事	高木秀雄	小椋英一	天野登	竹内賀男留	篠崎勇	栗下宗孝	村上清章	木下久敬	職名	平成一四年五月二十八日
監事	高木秀雄	小椋英一	天野登	竹内賀男留	篠崎勇	栗下宗孝	村上清章	木下久敬	職名	平成一四年五月二十九日
監事	高木秀雄	小椋英一	天野登	竹内賀男留	篠崎勇	栗下宗孝	村上清章	木下久敬	職名	現在に至る

第三節 組合の事業

一 造 林

美川村は、平成六年度以降九年間に、年平均三万三、〇〇〇本の植林が行われて、ここ二年間では、二万本を切っている。

この事は、美川の私有林の大半は、植林がなされており、ここ数年の木材価格の低下により、山林の主伐による再造林は、ほとんどない事を意味するものである。

美川村の森林は、現在、人工林九、四八七ヘクタールで、そのうち一六年生から五〇年生のものが、八、七〇五ヘクタールあり、人工林の九二パーセントを占め、これらの山林の、除伐及び間伐が必要となっている。

これらの森林に対して、流域森林総合整備事業・水土保全森林緊急間伐対策事業・村単間伐推進緊急対策事業等により、平成六年度から平成一三年度まで、一、三二七ヘクタールの間伐を実施した。また、平成一四年度には、美川村森林再生支援事業を導入し、二九一ヘクタールの除間伐を実施した。

現在、森林施業団地を推進し、森林整備地域活動支援交付金事業に取り組んでいる。

山行苗木の推移

年 度	苗木本数	補 助 金
平成 6	52 千本	3,356 千円
7	42	2,144
8	40	1,776
9	41	2,038
10	26	2,424
11	31	1,679
12	34	3,781
13	15	3,585
14	16	285

注 平成10年度から久万広域森林組合美川支所の取扱となる。

年度別造林事業

(単位：ha、円)

	植栽	下刈	除伐	間伐	枝打	
					面積	補助金額
平成 6	10.62	106.71	0.82	236.20	21.11	1,188,274
7	5.23	103.22		198.70	5.00	661,401
8	3.67	91.67		112.06		
9	7.69	45.44		105.67		
10	5.09	30.93		193.00		
11	2.37	26.70		180.80		
12	5.90	29.46		130.00		
13	5.99	28.96		171.00		
14	1.44	17.90	6.41	291.27		
合計	48.00	480.99	7.23	1618.70	26.11	1,849,675

二 木 材

現在、美川村の人工林の蓄積量は、二四五万四、七四二立方メートルとなり、大量の材積を蓄えている。

しかしながら、ここ数年の材価の低迷により、山林の主伐はほとんど無く、間伐材の出荷が大きなウエイトを占めている。その中で、村当局的熱意により、林道・作業道・作業路等の開設による、木材搬出コストの引き下げや、間伐等に対する各種補助金の適用等により、全体の生産量は、横ばいを維持している。

今後は、なおいっそうの生産コストの低減を図るとともに、市場のニーズに対応した、原木の安定供給により、外材に負けない木材造りをしていかなければならない。

三 販売事業

平成五年度以後、一〇年間の販売事業は、次のとおりである。

販売事業の推移

(単位：m³)

年 度	取扱実績	販 売	林 産	国有林請負外
平成 5	17,561	11,128	4,997	1,436
6	19,043	13,258	4,799	986
7	17,833	11,291	6,542	0
8	17,129	10,410	6,719	0
9	13,121	9,068	4,053	0
10 (1~3月)	2,853	2,853	0	0
10	10,940	10,940	0	0
11	77,118	55,077	13,408	8,633
12	78,102	61,076	11,555	5,471
13	76,020	63,763	6,301	5,956
14	75,763	63,060	6,676	6,027
合 計	405,483	311,924	65,050	28,509

久万広域森林データ

乾しいたけ

年 度	しいたけ生産量	組合取扱量	売上金額
	kg	kg	千円
平成 5	1,790	1,564	4,112
6	3,660	3,185	11,147
7	2,680	2,333	5,968
8	1,120	981	2,915
9	1,510	1,315	4,820
10 (1~3月)	590	518	1,704
10	530	468	1,675
11	910	792	2,233
12	1,680	1,465	3,362
13	900	789	1,870
14	1,360	1,189	3,978

四 しいたけ

しいたけ生産量は、生産者の高齢化や後継者不足、また、中国産の安価なしいたけの輸入増加におされ、減少の一途をたどり、ピーク時の一〇分の一から一五分の一へと落ち込み、価格についても、平成一三年度まで下落が続いた。

しかし、中国産しいたけへの、大量の防腐剤使用が発表され、このため、平成一四年度より、国内産しいたけの市場価格が上昇し、現在は、昭和六二年の単価までになっている。また、しいたけ原木については、美川村単独にて、クヌギの苗木の植林への補助を続けてきた。これらが、しいたけの原木として、利用できるようになりつつあり、今後のしいたけ生産増加を期待したい。

国産材加工施設事業

1. 事業費 40,229,000円

2. 事業内訳

区 分	面 積	金 額
作業用建物 (25×8)	200 m ²	24,985,000 円
モルダー	一式	15,244,000
計		40,229,000

事業費の内訳 負担区分 国庫補助金 20,114千円
 村補助金 18,102千円
 森林組合負担金 2,013千円

平成二年度より稼働をしている、国産材加工場においては、平成七年度、総合型林業構造改善事業の指定を受け、平成八年度で、作業用建物とモルダーを設置し、木材の付加価値を高め、地域林業の活性化を図るための事業を実施した。

五 加工事業

加工事業（美川事業所）

年 度	製 品	チップ	オ ガ	委託加工	計	金 額
	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	千円
平成 6	3,295	952	774	145	5,166	143,958
7	3,025	791	743	56	4,615	127,386
8	2,634	824	0	93	3,551	118,051
9	1,360	529	524	122	2,535	75,675
10	2,985	1,133	891	0	5,009	166,958
11	2,083	280	0	0	2,363	20,116
12	693	374	679	68	1,814	116,827
13	1,468	607	496	79	2,650	79,279
14	1,153	756	594	107	2,610	71,563
計	18,696	6,246	4,701	670	30,313	919,813

注 平成10年度から久万広域森林組合美川事業所の取扱となる。

六 林道及び作業路

林道及び県単独作業車道・村単独作業路を開設し、林産物の搬出、並びに造林・保育事業を推進した。

森林組合開設林道

実施年度	工種	路線名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						国県補助金	村費	地元負担金	
平成6	県単林道	タキヤマ	森林組合	m L= 6.0 W= 3.00	円 10,000,000	円 5,000,000	円 4,650,000	円 350,000	露口建設 露口育夫
〃	〃	惣津山	〃	L= 33.9 W= 3.00	10,000,000	5,000,000	4,650,000	350,000	高山建設 高山猛
〃	〃	池ヶ成	〃	L= 197.3 W= 3.00	10,000,000	5,000,000	4,650,000	350,000	伊豫建設 平柳幸次郎
〃	〃	イノノタニ	〃	L= 53.0 W= 3.00	8,000,000	4,000,000	3,720,000	280,000	中岡組 中岡隆
〃	〃	二籠	〃	L= 169.0 W= 3.00	8,000,000	4,000,000	3,720,000	280,000	アマノ建設 天野萬久
7	〃	タキヤマ	〃	L= 32.0 W= 3.00	12,000,000	6,000,000	5,580,000	420,000	露口建設 露口育夫
〃	〃	惣津山	〃	L= 114.7 W= 3.00	19,000,000	14,250,000	4,085,000	665,000	高山建設 高山猛
〃	〃	池ヶ成	〃	L= 186.2 W= 3.00	8,000,000	4,000,000	3,720,000	280,000	伊豫建設 平柳幸次郎

7	県単林道	イノノタニ	森林組合	L= 126.5 W= 3.00	11,000,000	5,500,000	5,115,000	385,000	中岡組 中岡隆
〃	〃	二籠	〃	L= 72.0 W= 3.00	9,000,000	4,500,000	4,185,000	315,000	アマノ建設 天野萬久
8	〃	タキヤマ	〃	L= 40.0 W= 3.00	15,000,000	7,500,000	7,050,000	450,000	露口建設 露口育夫
〃	林業地域総合整備事業	惣津山	〃	L= 346.7 W= 3.00	19,200,000	14,400,000	4,224,000	576,000	高山建設 高山猛
〃	県単林道	池ヶ成	〃	L= 226.6 W= 3.00	8,000,000	4,000,000	3,760,000	240,000	伊豫建設 平柳安得
〃	〃	イノノタニ	〃	L= 47.9 W= 3.00	8,000,000	4,000,000	3,760,000	240,000	中岡組 中岡隆
〃	〃	二籠	〃	L= 141.6 W= 3.00	10,000,000	5,000,000	4,700,000	300,000	アマノ建設 天野萬久
9	〃	タキヤマ	〃	L= 28.5 W= 3.00	10,000,000	5,000,000	4,700,000	300,000	露口建設 露口育夫
〃	林業地域総合整備事業	惣津山	〃	L= 139.4 W= 3.00	14,400,000	10,800,000	3,168,000	432,000	高山建設 高山猛
〃	林構作業道	池ヶ成	〃	L= 291.3 W= 3.00	23,000,000	16,100,000	6,210,000	690,000	伊豫建設 平柳安得
〃	県単林道	イノノタニ	〃	L= 22.3 W= 3.00	8,000,000	4,000,000	3,760,000	240,000	中岡組 中岡隆
〃	〃	二籠	〃	L= 71.7 W= 3.00	10,000,000	5,000,000	4,700,000	300,000	アマノ建設 天野萬久
10	〃	二籠	〃	L= 28.6 W= 3.00	10,000,000	5,000,000	4,700,000	300,000	アマノ建設 天野萬久

10	県単林道	イノノタニ	森林組合	L= 142.6 W= 3.00	15,000,000	7,500,000	7,050,000	450,000	中岡組 中岡隆
〃	〃	タキヤマ	〃	L= 64.9 W= 3.00	15,000,000	7,500,000	7,050,000	450,000	露口建設 露口育夫
〃	林構作業道	池ヶ成	〃	L= 306.5 W= 3.00	23,000,000	16,100,000	6,210,000	690,000	伊豫建設 平柳安得
11	県単林道	二箆	〃	L= 42.8 W= 3.00	18,000,000	9,000,000	8,640,000	360,000	アマノ建設 天野萬久
〃	〃	イノノタニ	〃	L= 71.4 W= 3.00	15,000,000	7,500,000	7,200,000	300,000	中岡組 中岡隆
〃	〃	タキヤマ	〃	L= 140.0 W= 3.00	15,000,000	7,500,000	7,200,000	300,000	露口建設 露口育夫
〃	林構作業道	池ヶ成	〃	L= 439.8 W= 3.00	42,394,000	29,675,000	11,870,000	849,000	伊豫建設 平柳安得
12	県単林道	イノノタニ	〃	L= 110.5 W= 3.00	12,000,000	6,000,000	5,760,000	240,000	中岡組 中岡隆
〃	〃	タキヤマ	〃	L= 127.4 W= 3.00	10,000,000	5,000,000	4,800,000	200,000	露口建設 露口育夫
13	〃	イノノタニ	〃	L= 108.6 W= 3.00	15,000,000	7,500,000	7,200,000	300,000	中岡組 中岡隆
14	〃	イノノタニ	〃	L= 44.8 W= 3.00	7,400,000	3,700,000	3,550,000	150,000	中岡組 中岡昭義

注 平成10年度から久万広域森林組合美川支所の取扱となる。

作業道（ジャガー道）開設年次別実績

美川村森林組合

年 度	開 設 延 長		合 計	開設事業費
	県補助分	村単独分		
	m	m	m	千円
平成 6	36,680	17,354	54,034	17,000
7	30,245	16,220	46,465	15,112
8	29,216	7,990	37,206	14,000
9	12,316	8,187	20,503	9,000
10	12,459	4,454	16,913	8,000
11	10,462	9,150	19,612	11,000
12	12,202	10,460	22,662	10,584
13	15,397	10,550	25,947	10,676
14	13,180	3,652	16,832	8,798
計	172,157	88,017	260,174	104,170

注 平成10年度から久万広域森林組合美川支所の取扱となる。

林道及び作業路明細

(単位：m 千円)

林 道 整 備 事 業					県・村単作業路			内村単作業路		県単の内補助 金継足し分	
路線名	開設 年度	完了 継続	開設延長	事業費	年度	延長	事業費	延長	補助金額	延長	補助金額
惣津山線	6～9	完了	634.7	62,600	6	54,034	17,000	17,354	2,500		
池ヶ成線	6～11	〃	1,647.6	114,394	7	46,465	15,112	16,220	2,500		
二籠線	6～11	〃	525.7	65,000	8	37,206	14,000	7,990	1,500		
タキヤマ線	6～12	〃	438.8	87,000	9	20,503	9,000	8,187	1,500		
イノタニ線	6～14	〃	727.6	99,400	10	16,913	8,000	4,454	1,000		
					11	19,612	11,000	9,150	3,000	5,370	237
					12	22,662	10,584	10,460	2,829	2,131	120
					13	25,947	10,676	10,550	2,796	3,422	159
					14	16,832	8,798	3,652	1,101	5,077	342
計			3,974.4	428,394	計	260,174	104,170	88,017	18,726	16,000	858

注 平成10年度から久万広域森林組合美川支所の取扱となる。

第2編 産業経済

林内作業路開設事業

年 度	村 単 独 事 業			県 単 独 事 業		
	延 長	事業費	摘 要	延 長	事業費	摘 要
6	17,354 ^m	5,000 ^{千円}	m当たり600円以内の1/2の補助	36,680 ^m	12,000 ^{千円}	事業費の1/2
7	16,220	5,000		30,245	10,112	
8	7,990	3,000		29,216	11,000	
9	8,187	3,000		12,316	6,000	
10	4,454	2,000		12,459	6,000	
11	9,150	5,000	m当たり600円以内の3/5の補助	10,462	6,000	村単にて事業費の1/10を追加補助
12	10,460	4,584		12,202	6,000	
13	10,550	4,660		15,397	6,016	
14	3,652	17,982		13,180	7,000	

資 金 貸 付 償 還 明 細

(単位：千円)

年 度	期首在高	当期貸付高	当期償還高	期末在高
平成 5	149,316	14,000	44,786	118,530
6	118,530	0	43,960	74,570
7	74,570	0	32,560	42,010
8	42,010	13,000	15,718	39,292
9	39,292	0	11,704	27,588
10	27,588	0	7,262	20,326
11	20,326	0	4,753	15,573
12	15,573	0	4,844	10,729
13	10,729	0	3,291	7,438
14	7,438	0	1,664	5,774

七 金融事業

制度資金の貸付がなくなって、年次償還だけとなり、一部農林中央金庫の貸付があった。

第四節 林業振興事業

一 森林整備計画

美川村の、森林整備計画の基本的な考えは、森林の有する多面的機能を効率的・効果的に、その働きを発揮させるため、森林について、最も重視すべき働きを定め、整備している。

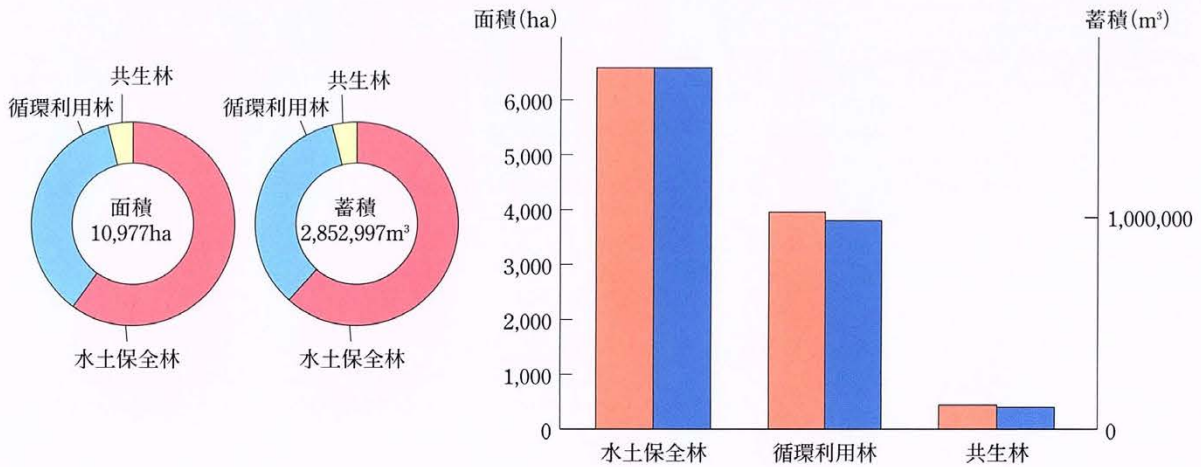
また、平成一三年の森林法改正により、市町村森林整備計画で、すべての森林が、重視する働きに応じて「水土保全林」「森林と人との共生林」「資源の循環利用林」の、三タイプに区分されている。改正に伴い、村の森林整備計画も変更し、森林の有する諸機能を、十分に発揮できるように、森林整備につとめている。

森林整備計画森林区分表

区 分	各 機 能	内 容
水土保全林 水を育む森林／災害を防ぐ森林	水を育む森林 (水源涵養機能の発揮を図る森林)	森林の土は雨を大量に蓄え、時間をかけて川に放出します。こうした働きにより、洪水を緩和するとともに川の流れを一定に保ち、安定した水資源の確保に効果を発揮できる森林。
	災害を防ぐ森林 (山地災害防止機能の発揮を図る森林)	森林の土の中には樹根が張り巡らされ、土や石を抱き止めていて、山崩れの発生を防いでいます。また、落ち葉や下草が雨粒の直撃から地面を守り、土が削られたり、土砂が流出するのを防ぐ働きの森林。
森林と人との共生林 生活にうるおいを与える森林	貴重な自然を守る森林 (保健文化機能の発揮を図る森林)	生物の多様性を守るため、原生的な自然を持つ森林や、学術的に貴重な動植物が棲んでいる森林。
	生活にうるおいを与える森林 (保健文化機能の発揮を図る森林)	身近な自然である山林、美しい自然景観を持つ森林などで、森林レクリエーション、自然環境教育など、森林と人とのふれあいの場としての利用を進めたい森林。
	生活環境を守る森林 (生活環境保全機能の発揮を図る森林)	樹高が高く、枝葉が豊かに茂っているなど、遮へい能力の高い森林などで、騒音や風を防ぐなど、良好な生活環境を保全するために必要な森林。
資源の循環利用林 安定的に木材を生産する森林	安定的に木材を生産する森林	安定した木材を供給する、木材資源としての役割を重視する森林。主に木材生産を目的に植えられたスギ・ヒノキの人工林が区分されます。森林はくり返し再生のできる数少ない資源で、また、地球温暖化が心配される中、原因となる二酸化炭素を吸収して固定する働きの面でも、森林と木材の役割が注目されます。

森林機能別

項目	面積(ha)	面積構成比	蓄積(m ³)	蓄積構成比	生長量(m ³)
水土保全林	6,581.85	59.96%	1,755,495	61.53%	35,247
循環利用林	3,953.89	36.02%	985,137	34.53%	19,742
共生林	441.21	4.02%	112,365	3.94%	1,983
合計	10,976.95	100.00%	2,852,997	100.00%	56,972



- (一) 間伐、保育その他森林の整備に関する基本的な事項
- 森林施業については、平成一〇年四月一日に、広域合併した、久万広域森林組合を中心に進められているが、林家の経営規模も小さく、また、木材価格の低迷により、林業採算性が悪化したための、林業従事者の後継者不足、高齢化・村外者の増加により、間伐・保育等の森林施業が、十分とはいえない状態である。
- 森林施業コスト低減を図るため、林業・作業道等の開設に努め、高密度網を整備するとともに、地域にあった高性能林業機械等を導入し、作業能率の向上に努める。
- また、森林施業を組織的・計画的に行うため、経営規模が零細で、林地が分散していることをふまえ、森林組合等に施業委託や信託等を促進し、森林施業団地を推進する。更に、森林組合等事業体就労者の安全衛生の確保、社会保険の加入等、福祉の向上及び就労の安全を図るなど、労働環境や労働条件の改善を推進する。
- (二) 森林施業の共同化の推進に関する事項
- 本村の林家は四八一戸で、そのうち、農家兼業林家が三三六戸を占め、全体の六九・九パーセントである。
- 森林所有規模五ヘクタール未満の林家が、全体の五〇パーセント、一〇ヘクタール未満の林家が、全体の七三パーセントを占め、極めて零細な上に、林地が分散していることから、施業の共同化を促進する必要がある。
- 林業の零細、分散的な所有形態を克服しつつ、森林の培養と、森林生産力の増進を図っていくため、今後さらさらに、森林組合と連携し、団地共同森林施業を強力に推進していく。そのため、受け皿となる森林組合の組織・経営基盤の拡充を図り、地域林業形成の実践的・中核的担い手として育成強化する。

(三) 林業に従事する者の養成及び確保に関する事項

林業従事者の高齢化、後継者不足、及び木材並びにしいたけ価格の長期低落等により、生産活動が低迷している林業の活性化を図るため、地域林業の中核的担い手として、森林組合及び林業担い手会社「いぶき」の育成強化に努める。また、次代を担う林業後継者の育成を図る一方、林業に従事している人に対しても、各種研修・技術研修会・講演会等を積極的に行う。

更に、林業従事者の技術向上、社会保障制度・退職金共済制度・労働安全衛生・機械化等を促進し、林業従事者の福祉の向上と後継者の確保を図る。

(四) 森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項

林業の機械化は、当村においては、二〇〇〜四〇〇度の急傾斜地でもあり、また、高性能林業機械が活用できる、道路網の整備が十分でないため、導入は図られていない。

しかし、林業労働者の高齢化、後継者不足等により、労働生産性の向上が必要であり、労務の軽減からも、機械化が重要なものとなるため、現行の、手持ち機械を中心とした作業体系から、当村の地形に適した、作業機械の導入を図る。また、森林組合を中心に、オペレーターの養成を図りながら、高性能林業機械の、作業体制のシステム化を図る。

(五) 作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項

本村における林道は、平成一四年度末現在で、四六路線、延長一三〇・五一六二キロメートル、林道密度は、ヘクタール当たり一一・八九メートルとなっており、整備は順次進んでいる。保育・間伐林の多

い当村においては、今後とも、林道と施業対象地を有機的に連結し、集約的な施業を確保するための、作業路の整備を促進する。特に、所有規模の小さい森林が多く、保育・間伐・搬出を、一体的かつ計画的に行える地域にあつては、森林所有者が共同して行うなど、効率的な路網の整備拡充に努めるものとする。

(六) 林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項

当村の素材は、森林組合、素材生産業、林家で生産され、その大部分が、素材のまま、他町村に運ばれている。

しかし、整備された国産材加工施設で、本村の約三〇パーセントの原木を加工し、製品としても出荷している。

また、平成七年度には、総合型林業構造改善事業の指定を受け、平成八年度で、作業用建物及びモルダを整備し、より一層、製品の付加価値を高めるべく実施した。

しいたけ生産については、生産者の高齢化、後継者不足が深刻な問題となっていることから、生産基盤の整備、経営の合理化、協業化を推進し、生産向上を図る。

二一 総合型林業構造改善事業

本村では、現在までに、第一次・第二次林業構造改善事業、林業構造改善関連整備緊急対策事業、新林業構造改善事業を実施し、生産基盤の整備、協業の推進等を図り、地域林業を振興してきた。

更に、平成七年度に、総合型林業構造改善事業の指定を受け、平成八年度から平成一二年度の五カ年間で、総額一億八、二六三万九、四二七円で実施した。その内容は次のとおりである。

- (一) 林産物加工施設整備事業（平成八年度）
 本村の主幹産業である、林業の活性化を図るため、本事業により、作業用建物・モルダの施設を、国産材加工施設に設置し、付加価値を高めることによって、林家の所得の増大と、林業従事者の雇用の安全確保を図ることに努めた。
- (二) 林道整備事業及び作業道開設事業（平成八年度～一二年度）
 森林施業の適正化と、生産コストの低減を図るため、イロノトウ線二、〇一一・八メートルの舗装工事、池ヶ成線一、〇三七・六メートルを開設した。

総合型林業構造改善事業

実施年度	事業区分	事業種目	事業主体名	施工箇所名	工種又は施設区分		構造企画又は規模	事業量	総事業費(円)	
H 8	構造改善事業	地域協議会活動事業	美川村	美川村上黒岩	協議会開催			1回	98,000	
					先進地調査			1回	1,000,000	
					啓蒙普及活動			1回	152,000	
	林業生産基盤整備事業	林道整備事業		美川村有枝	林道舗装	イロノトウ線	3.4 m	1390.8m	34,666,000	
	林業経営高度化施設整備事業	林産物加工施設整備事業		美川村仕出	国産材加工施設	作業用建物		200㎡	24,985,000	
						モルダ	1台	15,244,000		
	事業費合計							76,145,000		
H 9	林業生産基盤整備事業	林道整備事業	美川村	美川村有枝	林道舗装	イロノトウ線	3.4 m	621m	13,000,000	
	構造改善推進事業	地域協議会活動事業		美川村上黒岩	協議会開催			1回	106,000	
					啓蒙普及活動			1回	148,000	
	林業生産基盤整備事業	作業道開設事業	久万広域森林組合	美川村日野浦	作業道開設	池ヶ成線	3.0 m	291.3m	24,106,477	
	事業費合計							37,360,477		
H 10	構造改善推進事業	地域協議会活動事業	美川村	美川村上黒岩	協議会開催			1回	106,000	
					啓蒙普及活動			1回	148,000	
	林業生産基盤整備事業	作業道開設事業	久万広域森林組合	美川村日野浦	作業道開設	池ヶ成線	3.0 m	306.5m	24,132,150	
	事業費合計							24,386,150		
H 11	構造改善推進事業	地域協議会活動事業	美川村	美川村上黒岩	協議会開催			1回	106,000	
					啓蒙普及活動			1回	148,000	
	林業生産基盤整備事業	作業道開設事業		久万広域森林組合	美川村日野浦	作業道開設	池ヶ成線	3.0 m	439.8m	28,743,800
									15,750,000	
	事業費合計							44,747,800		
総 計									182,639,427	

二三 間伐促進強化対策事業

本村における現況、森林面積一一、九三〇ヘクタールのうち、民有林面積は、一〇、九八八ヘクタールであり、民有林の樹林地一〇、五八九ヘクタールのうち、人工林は、九、四八九ヘクタールを占め、人工林率は、八九・六パーセントと高い比率になっている。

この人工林のほとんどが、戦後の積極的な拡大造林によるものであり、現在においては、着々とその森林資源を蓄積している。

また、年齢別で見ると、面積一一、五三一ヘクタールのうち、人工林は、一〇、四〇四ヘクタールを占め、人工林率九〇・二パーセントの割合である。その中でも、三一から五〇年生の面積が、七三・九パーセントと高い割合を占めており、これらの森林については、木材価格の長期低迷による、採算性の悪化と過疎化、高齢化により、間伐等の必要な森林施業が、実施されていないために、放置されている。このような森林が増加すると、水源涵養が損なわれたり、山地災害、放置林などといった、本来持つべき機能が発揮されない森林が増加してくる。そういった森林を増やさない為にも、間伐等を中心とした、適正な森林施業管理を行い、森林資源の充実、資質向上を目指して、健全な森林を造成することが、大きな課題である。

このような諸情勢に対処して、地域の実態に即した、集団的な間伐を組織的、かつ計画的に促進することを目的とする。

(一) 間伐実施事業

① 森林施業計画制度

平成一三年七月に、森林法の一部改正に伴い、森林施業計画制度が大きく見直された。森林施業計画制度は、森林所有者などが、自主的に造林・保育・間伐等森林施業の、五ヶ年間の計画をたて、村長の認

定を受けることができる制度である。この認定を受けるためには、三〇ヘクタール以上の、団地的なまとまりを持つ森林が必要である。小規模な森林でも、近隣の方々と合わせて、三〇ヘクタール以上の団地的まとまりを持った森林が確保できれば、共同でこの計画を立てることができる。現在のところ、田渡野瀬団地・大川中組・大川下組団地・ヤケソ団地・有枝上谷団地、の五団地が認定されている。

また、森林施業計画の認定をうけると、森林整備地域活動支援交付金などの、さまざまな支援策を受けることができる。

② 森林整備地域活動支援交付金

林業を取り巻く厳しい状況の中、森林所有者の、森林に対する、適切な施業が実施されていないのが多く見られる。しかし、手を入れずに、山を放っておけば、山の価値が下がるだけでなく、森林のもつ多面的な機能も損なわれてしまう。

そこで、森林所有者が、山の手入れを進めるために欠かせない活動を、交付金によって支援するのがこの制度である。

また、対象となる森林は、村長の認定を受けた、森林施業計画を作成した人で、積算基礎森林面積に対して、交付金が交付される。現在のところ、田渡野瀬団地・大川中組・大川下組団地・ヤケソ団地・有枝上谷団地、の五団地が実施をしている。平成一五年一〇月末で、五団地の積算基礎森林面積は、一七八・六六六ヘクタールで、交付金額は、一七八万六、六〇〇円である。

③ 施業実施協定

この制度は、村内にある一団の民有林の森林所有者等、又は、土地所有者が、その全員の合意の下に、村長の認可を受けて、森林施業の共同化、及びそのために必要な、施設の整備に関する協定を締結することができるものである。認可を受けて協定を締結すると、村単独事

業、林業用共同作業道や林内作業路の、高率の補助金を受けることができる。現在のところ、村長の認可を受けている協定は、田渡野瀬実施協定・大川下組実施協定・有枝上谷実施協定である。

田渡野瀬実施協定では、平成二二年度に、総事業費一七五万円、延長五一メートル、幅員四・五メートルの林業用共同作業車道（一号線）を開設した。また、同実施協定では、平成一三年度に、総事業費一九三万二、七七一円、延長四八一メートル、幅員三・五メートルの、林業用共同作業車道（二号線）も開設した。

また、平成一五年度では、大川下組実施協定で、林業用共同作業車道を開設する。

団地設定状況

《大川組団地》

団地面積 (ha)	材積 (m ³)	人数 (人)	7歳以下の人工林	8,9歳級の人工林	12歳以下の天然林	積算基礎森林面積	交付金 (円)	備考	
105.83	34,992	80	21.59	12.46	0.00	34.05	340,500		
水土保全	37.92								12,715
循環利用	67.88								22,268
共生	0.03								9

《田渡野瀬団地》

団地面積 (ha)	材積 (m ³)	人数 (人)	7歳以下の人工林	8,9歳級の人工林	12歳以下の天然林	積算基礎森林面積	交付金 (円)	備考	
112.73	43,175	43	17.28	15.34	0.00	32.62	326,200		
水土保全	91.93								35,591
循環利用	20.80								7,584
共生	0.00								0

《大川中組団地》(久万造林株)

団地面積 (ha)	材積 (m ³)	人数 (人)	7歳以下の人工林	8,9歳級の人工林	12歳以下の天然林	積算基礎森林面積	交付金 (円)	備考	
88.90	28,504	1	17.08	59.20	0.00	76.28	762,800		
水土保全	88.90								28,504
循環利用	0.00								0
共生	0.00								0

《ヤケソ団地》

団地面積 (ha)	材積 (m ³)	人数 (人)	7歳以下の人工林	8,9歳級の人工林	12歳以下の天然林	積算基礎森林面積	交付金 (円)	備考	
33.24	5,525	1	12.17	0.74	1.41	14.32	143,200		
水土保全	9.45								1,028
循環利用	23.79								4,497
共生	0.00								0

《有枝上谷団地》

団地面積 (ha)	材積 (m ³)	人数 (人)	7歳以下の人工林	8,9歳級の人工林	12歳以下の天然林	積算基礎森林面積	交付金 (円)	備考	
73.80	15,679	80	21.39	0.00	0.00	21.39	213,900		
水土保全	0.00								0
循環利用	73.80								15,679
共生	0.00								0

四 村単独事業

林業を取り巻く情勢は、過疎化・高齢化による、林業労働力の確保難、林業生産基盤整備や林業機械化の遅れ、外材輸入の増加、非木質系資材との競合等、依然として厳しいものがある。

そこで、本村では、林家の造林意欲の減退防止と、林業の活性化を図るため、種々の補助事業を導入して、生産基盤などの整備向上に努めてきたが、単独事業としても、次に掲げる事業等を継続して実施し、林家の要望に、少しでも応えるための努力をしている。

(一) クヌギ造林及び広葉樹植林事業

本村におけるしいたけ生産の低迷は、生産者の高齢化や後継者不足、また、安価な中国産しいたけの輸入や原木不足が大きな要因である。

そのため、村では、将来における生産の安定と増産を図るための、原木の確保の一方策として、クヌギの苗木補助を、昭和五九年度から実施している。

また、平成一二年度からは、水源涵養、自然保護の観点から、広葉樹（ケヤキ・山桜）の植林に対しても実施している。補助事業の内容は、別表のとおりである。

美川村クヌギ造林及び広葉樹植林事業

年 度	人 数	本 数	金 額	補助金額	補助率
平成	人	本	円	円	%
6	1	200	11,400	7,980	70
7	2	700	41,300	28,910	70
8	4	1,400	79,000	55,300	70
9	2	600	37,200	26,040	70
10	1	200	12,800	8,960	70
11	4	2,100	134,400	94,080	70
12	7	2,500	185,430	129,801	70
13	7	4,250	282,030	197,421	70
14	4	1,700	114,135	79,894	70
15	3	1,000	72,450	50,715	70

※平成10年度から久万広域森林組合美川支所の取扱となる。



間伐林の状況

(二) 美川村森林再生支援事業
この事業は、村が、久万広域森林組合が行う、美川村森林再生支援事業補助金を交付する事により、放置、荒廃する森林を緊急に間伐し、健全な育成林創りと、森林の公益的機能の増進を目指し、林業の活性化を図る事を目的とし実施されている。
また、一施工地下限が一〇アール以上、上限は五ヘクタールが補助対象となり、一六から五〇年生の杉・桧の人工林の、除・間伐に対する補助である。



製材品展示状況



製材品コンクール表彰式

(三) 製材品コンクール
製材品コンクールは、毎年一月三日に行われる「みかわまつり」の、協賛行事として開催されており、昭和六一・六二年度には、団体事務所森林組合倉庫にて、林業資料とともに、製材品の展示をしたのを皮切りに、昭和六三年度からは、場所を役場地下駐車場に移し「製材品コンクール」として審査を行い、入賞者の表彰を行っている。
この製材品コンクールは、村林研グループ協議会の会員を中心とし、製材品（柱もの）の展示を行い、保育の状況や、育成の状況等を把握するとともに、会員相互の研鑽の場として進めている。受賞者は、別表のとおりである。

みかわまつり製材品コンクール受賞者名簿

		樹種	平成 6年度	平成 7年度	平成 8年度	平成 9年度	平成10年度
金賞	村 長 賞	スギ	高橋 廣衛	上田 輝男	猪上桂一郎	猪上桂一郎	猪上桂一郎
	〃	ヒノキ	梶家 昭綱	大南 進	小倉 杉野	向井 純司	榮代良比古
銀賞	議 長 賞	スギ	榮代 靖男	大野 利一	小椋 英一	綱田 章	西森 建次
	森林組合美川支所長賞	ヒノキ	猪上由津子	高橋 廣衛	梶家 修	隅田智恵子	猪上桂一郎
銅賞	林研協議会会長賞	スギ	坪内 勲	梶家美津子	榮代良比古	鶴崎 好則	安宅 公廣
	産 業 課 長 賞	ヒノキ	梶家美津子	山内 一男	向井 純司	小倉 杉野	大南 進

		樹種	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
金賞	村 長 賞	スギ	榮代 靖男	高橋 昭登	篠原 廣	西森 福夫	山内あけみ
	〃	ヒノキ	榮代 松子	榮代 松子	山田 壽雄	榮代 卓二	小椋 英一
銀賞	議 長 賞	スギ	大野 利一	西森 福夫	猪上桂一郎	小椋 英一	栗下 正
	森林組合美川支所長賞	ヒノキ	山内あけみ	綱田 章	藤本幸三郎	向井 純司	大南 晴美
銅賞	林研協議会会長賞	スギ	向井 純司	藤本幸三郎	大野 節子	榮代 靖男	中川 良夫
	産 業 課 長 賞	ヒノキ	梶家美津子	山田 三隆	向井 純司	続木 光	坪内 勲

第四章 その他の産業

第一節 畜産業

近年の、畜産をめぐる情勢は、国際化の進展等による、競争の激化、畜産環境問題、担い手の高齢化、さらには、平成一三年九月、千葉県で発生した、BSE（いわゆる狂牛病）等による牛肉価格の低下や、食肉等の安全性・消費の減退など、取り巻く状況は、極めて厳しいものがある。

こうした厳しい状況に対処するため、平成一四年度から、すべての牛に、生涯唯一の個体識別番号の付いた「耳標」を装着し、全国データベースで管理する「家畜個体識別システム」が稼働している。今後は、これらの関連情報を連結させ、消費者等に、様々な生産履歴情報を提供する「牛肉トレーサビリティシステム」の構築が急がれる。

（平成一五年二月一日より施行予定）

本村においては、農家の高齢化等により、平成一四年現在で、飼養農家九戸・飼養頭数三五頭と減少傾向である。

第二節 水産業

面河川漁業協同組合 四国の霊峰石鎚山（標高一、九八二メートル）を源流とする面河川は、久万町三坂峠を源流とする久万川と、美川村御三戸にて合流し、高知県境からは、仁淀川となり、太平洋へと注が

れている。この流域は、急峻な地形と豊かな森林をバックに、無数の渓谷があつて、年間二、五〇〇ミリを越す雨が、豊富な水量を生み出し、魚影も濃く、他県からも、多数遊漁者が訪れている。

また、六ヶ所に水力発電所が設置され、面河ダムからは、松山方面への分水が行なわれているが、高知県境の大渡ダムは、自然遡上する全ての魚種をシャットアウトし、面河川漁協は魚種の保護と確保を、全て、自主放流に頼らざるを得ない現状であり、流域全体において、公共工事を中心に、年中開発が進み、河川の環境、水質悪化の一途をたどっている。

昭和六〇年代から、アユの放流は、三、〇〇〇キログラムを超え、他の魚種別にみても、年々放流量は増加傾向にあるが、コイについては、近年入手しにくくなり、放流量は減少しつつある。

今日まで、当組合としては、漁場環境を保全するための啓発や、宣伝活動、清掃等を、毎年積極的に実施している。

各河川工事に対しては、久万土木事務所にも御協力をお願いして、極力汚濁排水が出ない工法で、また、魚類の繁殖保護に、悪い影響がある時期を避けての工事施工を要請し、河川の水質悪化防止に努めている。

面河川漁業協同組合年次別魚族放流数

(単位：kg)

	あゆ	うなぎ	こい	ます	あまご	その他
平成6	3,640	600	1,500	400	2,000	いだ 200
7	3,443	600	2,000	400	2,700	200
8	3,260	500	2,000	400	2,700	200
9	2,600	500	2,600	400	2,500	200
10	3,000	500	2,600	400	2,500	200
11	3,000	500	2,000	300	2,400	200
12	3,400	380	500	300	2,000	200
13	3,700	400	500	300	2,000	200
14	3,300	301	235	300	2,000	200
15	3,000	419	100	300	2,000	200



アマゴの放流

面河川漁業協同組合歴代組合長

代	組合長氏名	就任年月日	退任年月日
初代	高岸勝繁	昭和一一・六・三〇	昭和二三・七・二六
二代	久保雅晴	一三・七・二七	一四・六・二五
三代	土居勘太郎	一四・六・二六	一五・六・六
四代	水元市松	一五・六・七	一六・六・一一
五代	八幡文太郎	一六・六・一一	一七・六・七
六代	久保内幸吉	一七・六・八	一九・八・一五
七代	重見丈太郎	一九・八・一六	二四・八・一五
八代	永井元栄	二四・八・一六	三一・九・三〇
九代	代理 平岡英男	三一・九・三〇	三二・八・一三
一〇代	高岸勝繁	三二・八・一四	四二・五・二三
一一代	高木松太郎	四二・五・二四	五六・四・一六
一二代	村上清章	五六・四・一六	五七・五・一一
一三代	森岡惇一	五七・五・一一	六〇・五・一一
		六〇・五・一一	現在に至る

第五章 商工業

第一節 地域の活性化を目指した 商工業の役割

人口が、地域活性化の重要な要素となることは、これまでの、各統計指標等によって明らかである。しかも、その人口が、長期的には減少するであろうことも、容易に想像出来る。

従って、現在の状態で推移すると、多くの事業者が打撃を受けることになりかねない。こうしたことを避ける為、地域商工業者に、奮起と努力が望まれる。

ところで、人口が増減する要因には、出生率や死亡率の変化によって増減する自然増減と、転入・転出といった人口移動による社会的増減の二つがあると思われる。

このうち、人口の社会的増減の関わりで、商工業者が担うべき課題を考えてみると、人口が増減する要因として、経済的・文化的・地理的要因が考えられる。

経済的要因は、その地域に雇用の機会があり、働く場があるということである。これはつまり、所得機会があるということの意味する。

そこで、住民に、職場とそれに伴う所得機会を提供する為には、職場づくりを行わなければならない。言い換えれば、事業を活発にすることが、人口を増加させる大きな要因となる。その方策として、職場の環境整備や、新しい産業起こしが考えられる。

次に、文化的要因として、文化を、人の営みそのものや、様式とし

てとらえると、そこには、生活に必要な物資や、サービスをどのように入れ、いかに消費するかといった、精神文化が生まれる。

消費文化を支えているのが商業である。つまり、商業は、地域に人口が定着する大きな要因である。従って、商業機能の地域における充実、人口の定着、ないし、人口減に歯止めをかけるために、ぜひとも取り組まなければならない課題である。

商業機能の充実によって、地域人口を増加させ、あるいは、少なくとも、人口の減少に歯止めをかける要因となる、消費者の立場に立つた、商業機能の見直しが不可欠であると思われる。

豊かな社会は、消費者に、選択の自由と利便性を与えた。商業は、これら消費者の要求にマッチした、商業機能の再生を図らなければならない。

更に、地理的要因としては、各地域の地理的条件は、それぞれ固有のものである。従って、これらの条件については、それを売り物にしたり、あるいは、逆手にとった施策を打ち出すことによって、それを生かすことにもなる。

当村においても、田舎のもつ様々な良いイメージ、スキー場・清流・御三戸嶽・岩屋寺・上黒岩遺跡等、地域の観光をアピールするには、好条件とも言える数々の名所がある。これらの地理的条件を生かし、村外の人々に対し、美川村について、良いイメージを与えていくことも、人口の定着を促す一つの要因と考えられる。

第二節 商工会のあゆみ

地域の過疎化、高齢化が加速している状況下、商工会においては、組織・財政・事業のあらゆる面を鑑みるに、現状を維持することの困難さを、年々強く感じる傾向にある。

年度別主要事項の推移

年 度	6	7	8	9	10	11	12	13	14
商工会員数	122	117	117	116	115	112	113	110	108

実 績

年度	相談指導		金融斡旋		講習会開催		労働保険事務代行	
	巡回指導	窓口指導	件数	金額 (万円)	回数	人数	委 託 事業所数	対 象 従業員数
6	255	33	14	3,060	4	40	44	266
7	290	63	26	7,710	3	30	40	253
8	254	54	20	7,860	4	55	41	285
9	238	60	17	4,720	4	42	39	279
10	258	67	16	4,565	5	54	36	376
11	249	79	14	4,250	4	45	35	270
12	209	68	8	2,082	5	49	32	345
13	208	60	13	3,545	5	52	36	294
14	307	62	5	680	4	52	41	338

数十年前には若く、活力もあった事業者も、時の流れとともに高齢化し、事業環境の悪化、後継者不在という実情も、さらに追い討ちをかけるように、事業者の活力を奪っている。

商工会財政状況

科目 年度	収入の部 (単位 千円)						支出の部 (単位 千円)				
	会費	県 補助金	村 補助金	手数料	その他	計	経営改 善普及 事業費	一般 事業費	管理費	次期 繰越 金	計
6	769	9,604	2,350	885	3,908	15,401	11,039	2,128	2,056	178	15,401
7	768	9,920	1,500	906	1,798	14,892	11,672	951	2,157	112	14,892
8	772	12,266	1,650	870	1,659	17,217	13,547	1,539	2,032	99	17,217
9	764	10,547	2,240	797	1,864	16,212	11,997	1,772	2,371	72	16,212
10	747	13,337	2,038	664	1,691	18,477	14,838	929	2,432	278	18,477
11	745	10,525	2,650	820	1,998	16,738	12,178	1,992	2,253	315	16,738
12	865	10,332	2,700	762	1,641	16,300	12,098	1,938	2,161	103	16,300
13	866	12,607	3,120	171	1,932	18,696	14,249	1,826	2,280	341	18,696
14	851	9,691	3,120	176	2,230	16,068	11,590	1,799	2,166	513	16,068

このような中で、商工会は今、地域の事業者の為に何が出来るか、何をすべきかを吟味し、事業者に活力を与える為に、事業展開する必要がある。

役員一覧表

補 經 監 理 副 会 助 指 " " " " " " " " " " " " 会 導 導 事 事 長 長 員 員 事 事 長 長													役職	年度					
八石朱美	伊藤重紀	山口栄幸	木山徳重	天野萬久	山本實男	高木俊三	村上清章	日浦義勝	桑村ヨシ子	宮城鶴喜	浜田正一	村上義雄	篠崎賀男	竹内昭平	土居昭平	平岡哲郎	中家好喜	大野利一	H七 H八
八石朱美	伊藤重紀	山口栄幸	高岡春彦	天野萬久	岡林博文	高木俊三	天野登勝	日浦義勝	桑村隆	伊藤孫市	松本綱義	村上正義	篠崎雄有	光田昭平	土居昭平	西山彦	中家好喜	平岡哲郎	H九 H一〇
八石朱美	伊藤重紀	山口栄幸	高岡春彦	天野萬久	安部俊武	高木俊三	天野登勝	日浦義勝	桑村隆	伊藤孫市	松本綱義	村上正義	篠崎雄有	光田昭平	土居昭平	岡林博文	中家好喜	西山彦	H一 H二
八石朱美	伊藤重紀	堀口秀幸	高岡春彦	天野萬久	安部俊武	高木俊三	高山登也	高山哲也	桑村隆	伊藤孫市	松本綱義	井上鈴枝	篠崎豊	光田有	玉井春鬼	土居昭平	村上正一	西山彦	H三 H四
八石朱美	伊藤重紀	堀口秀幸	高岡春彦	天野萬久	安部俊武	高山三男	高山哲也	桑村隆	伊藤孫市	松本綱義	井上鈴枝	篠崎豊	光田有	玉井春鬼	土居昭平	村上正一	西山彦	H五	

青年部役員一覽表

役職	年度
部長	H六〇〇
部長	H六〇一
部長	H六〇二
部長	H六〇三
部長	H六〇四
部長	H六〇五
部長	H六〇六
部長	H六〇七
部長	H六〇八
部長	H六〇九
部長	H六一〇
部長	H六一一
部長	H六一二
部長	H六一三
部長	H六一四
部長	H六一五

女性部役員一覽表

役職	年度
部長	H六〇〇
部長	H六〇一
部長	H六〇二
部長	H六〇三
部長	H六〇四
部長	H六〇五
部長	H六〇六
部長	H六〇七
部長	H六〇八
部長	H六〇九
部長	H六一〇
部長	H六一一
部長	H六一二
部長	H六一三
部長	H六一四
部長	H六一五

第三節 観 光

美川村の観光地として、美川スキー場・名勝御三戸嶽・岩屋寺・上黒岩岩陰遺跡・赤蔵ヶ池などがあるが、ここでは、主な観光地として開発に力を注いだ、美川スキー場について述べる。

一 美川スキー場

昭和三五年に開設した美川スキー場は、リフト数四基・コース数九と、四国最大級の規模を誇るスキー場であるが、暖冬雪不足の解消及びスキーヤー・スノーボーダーのニーズに応えるべき、次のような施設の整備を施した。

- 平成六年度 第二・三リフト原動監視室改築
- 平成七年度 第二・三リフト山頂監視室改築
- 第三リフト山頂駅安全対策
- 平成八年度 第三リフト横トイレ改築
- 平成九年度 コース案内看板設置
- スカイラインコース人工降雪冷却装置据付
- 貸スキー・スノーボード購入
- 平成一〇年度 パトロール室新築
- 平成一一年度 人工降雪設備増強（モミの木・ファミリーコース）
- 人工降雪機四台
- 平成一二年度 第一リフト下トイレ改築
- ビギナーズコース開設
- 人工降雪機配電配管（ビギナーズコース）
- 第五リフト運転室改築



美川スキー場
モミの木コース

貸出所改築
圧雪車購入

平成一三年度 第一リフト山頂監視室改築

平成一四年度 チケット売場改築

平成一五年度 料金所改築

以上のように、毎年施設等の整備を行い、完全ではないが、スキー場として一応の諸施設を有しており、年間三万人以上のスキーヤー・スノーボーダーが、入場するスキー場になっている。

しかし、スキー人口の減少・流出に歯止めをかけるためには、今以上の施設整備拡大が必要であるように思われる。

二 白銀荘

白銀荘は、昭和五九・六〇年度の二年間で、用地造成費、主体工事費、電気工事費、衛生工事費など、総工事費一億七、六九〇万円をかけて整備された。

平成二年一月二八日から三〇日にかけて実施された、西日本二三府県による「高松宮杯第三二回西日本スキー競技大会」では、三笠宮寛仁様の宿泊所や晩餐会場として使用されるなど、大会拠点としても大きな役割を果たした。

近年、全国的な余暇時間の増加により、特に冬場のスキー来場者は増加傾向にあったが、平成一三年度シーズンでは、長引く不況の影響もあり、ゲレンデ状況は良かったにもかかわらず、前年を下回る結果となった。

白銀荘の営業は、平成五年度から、株式会社みかわへ委託されているが、今後も、利用客の減少傾向はしばらく続くことが予想されるため、さらなる経営の効率化が必要となっており、スキー場と一体となった整備が望まれる。

三 美し村連邦会議（旧美しい村サミット）

村名の頭に「美」のつく村は、茨城県美和村・美浦村・長野県美麻村・岐阜県美並村・三重県美杉村・美里村・和歌山県美山村・岡山県美甘村・徳島県美郷村、そして愛媛県の我が美川村と、全国で一〇村ある。

この一〇村の首脳が連帯し、相互に交流することによって、それぞれの村の活性化につなげようと、平成元年度から、各村の村長・議長が一堂に会し、「全国美しい村サミット」が開催されている。

サミットの経緯は別表のとおりであるが、平成一一年度、岐阜県美並村で開催された第一回の会議において「美し村連邦」会議と新たな名称を決定し、参加一〇村のさらなる飛躍を目指してきた。

平成一三年度には、一〇月二七・二八日と美川村で開催され「循環型社会の形成に向けて」をテーマに会議が持たれた。

また、平成一四年度は、和歌山県美山村で開催され、会議では、市町村合併の取り組みを主題とした会議が持たれた。この中で、合併への取り組みが本格的に進んでいる村があり、今後の会議の継続は難しいと判断され、平成一五年度で「美し村連邦」会議の解散が確認された。

前年度「美し村連邦」の解散の確認を受け、平成一五年度、茨城県美和村の会議は、本会議の解散を承認するものとなった。

サミット旗については、平成一二年まで、日本の人口重心地であり、第一回サミットの開催地でもある、岐阜県美並村で保管されることが決定した。

会議の中では、美し村連邦の発展的な解散が議論され、合併により村名が消えても、美しい地域は次世代へ引き継いでいくことが確認され、以下の大会宣言が承認された。

「美し村連邦」会議美和大会宣言

わたくしたち全国一〇か村の美し村連邦首脳は、二〇〇三年一〇月二日・三日、茨城県美和村で一堂に会し「未来へ羽ばたこう 美し村」をテーマとして「美し村連邦」会議美和大会を開催いたしました。

今回の大会では、今までに培ってきた連帯の和を再確認するとともに、「美しい村」を守るこれまでの様々な活動の総括をいたしました。わたくしたちは、平成の大合併により「村名の頭に美のつく村」がなくなっても、自分たちの住んでいる自然豊かな故郷を「美し村」として残し、次世代に繋げるための活動を展開し続けることをここに宣言します。

二〇〇三年一〇月三日

茨城県稲敷郡美浦村	村長	上野武雄
長野県北安曇郡美麻村	村長	北沢伊絃男
岐阜県上郡美並村	村長	河合辰男
三重県安芸郡美里村	村長	黒川和義
三重県一志郡美杉村	村長	結城敏
和歌山県日高郡美山村	村長	池本功
岡山県真庭郡美甘村	村長	池田文治
愛媛県上浮穴郡美川村	村長	木下久敬
徳島県麻植郡美郷村	村長	河野利英
茨城県那珂郡美和村	村長	大瀧典夫

「全国美しい村サミット」開催記録

年月日		開催地	メインテーマ	会議内容
昭和63年 (1988)	5月11日	三重県 美杉村		参加依頼通知 発起人：岐阜県美並村 三重県美杉村 三重県美里村
	11月16日 ～17日	三重県 美里村		全国美しい村サミット89担当者会 開催要項の検討（会場、名称、時期等）
平成元年 (1989)	8月18日 ～19日	岐阜県 美並村	つどい、かたりあい、 そしてわかりあい	全国美しい村住民憲章の提唱 姉妹縁組について 親善交流について
平成 2年 (1990)	6月14日 ～15日	茨城県 美浦村	育もう美しい村の自然と文化を	姉妹提携盟約書調印 全国美しい村住民憲章の提唱 長野冬季オリンピック誘致決議依頼
平成 3年 (1991)	8月17日 ～18日	愛媛県 美川村	連帯、そしてジャンプ	全国美しい村住民憲章制定 シンボルマークの決定
平成 4年 (1992)	11月 5日 ～ 6日	和歌山県 美山村	探ろう緑と水のポテンシャル	森林交付税（仮称）創設
平成 5年 (1993)	8月22日 ～23日	茨城県 美和村	美しい村づくりのための アクション	環境問題について 美しい村づくりの目標 共同事業等
平成 6年 (1994)	7月30日 ～31日	岡山県 美甘村	美しい環境づくりのための アクション	環境問題討議 オリンピックボランティア協力要請
平成 7年 (1995)	7月29日 ～30日	三重県 美杉村	育もう自然、守ろう環境、 広げよう交流の輪を	環境問題 森林交付税（仮称）創設推進
平成 8年 (1996)	7月27日 ～28日	長野県 美麻村	美しい村遊・交・学	環境問題 災害相互支援協定 オリンピックボランティア
平成 9年 (1997)	6月 7日 ～ 8日	徳島県 美郷村	人と自然の共生	環境問題 特定郵便局廃止反対決議 オリンピックボランティア
平成10年 (1998)	8月 8日 ～ 9日	三重県 美里村	緑の大地から 新しい風の発信	環境問題 森林交付税創設運動 全国美しい村サミット
平成11年 (1999)	10月30日 ～31日	岐阜県 美並村	日本一の美しい村をめざして	「美し村連邦」建国 森林の日（5/20）制定 女性フォーラム
平成12年 (2000)	11月11日 ～12日	茨城県 美浦村	水と緑のハーモニー	各村の重点施策 ウォーターフォーラム
平成13年 (2001)	10月27日 ～28日	愛媛県 美川村	循環型社会形成に向けて	首長・住民代表の事例発表 森林の日記念行事報告
平成14年 (2002)	10月 3日 ～ 4日	和歌山県 美山村	市町村合併と村づくりについて	首長・議長の意見交換 美し村連邦の今後について
平成15年 (2003)	10月 2日 ～ 3日	茨城県 美和村	未来へ羽ばたこう美し村	首長・議長の意見交換 美し村連邦の発展的解散について